

寄贈 秋山文庫 (伊勢湾台風水入本) 昭36修理製本

温知餘筆

卷之十九

桑名市立図書館

秋山文庫

2-185

3

心
餘
筆

九之卷



溫知餘筆卷之九

學談 九

尙齋先生雜談錄抄 三宅先生ノ談話ヲ久米訂齋先生ノ筆記セラレ

タル者ニシテ含輝集ノ中ヨリ抄錄セシ者ナリ

山崎先生ノ書籍ニ改點アルヨメルガクハ和訓ヲヨマセ玉ヘリ此

日本紀ヲヨムニツケテ思フニ尤千萬ナルナリ日本ノ音ナレバ

自然ニウツリ易シ

山崎先生嘗テ講義ナサレシ時ハ四ツギリニテソレヨリハ門ノクハ

ロチオロシテ一人ヒ入レ玉ハズ甚ダ嚴シキナリ浮屠ハ一人モ入

レラレズ聞タク思フモノハ格子ニ立ギ、シタリ大音聲ニテ三間ヲ

ユヘテ格子へ聞ヘシトナリ論語ハ四枚孟子ハ六枚ヅ、講解ナサレ

テ大筋ヲヒツトツテトキ玉ヘリツノアトニ筆錄ヲヨメリ只講會ヲ

シテキク時ハ精微ニ語リ玉ヘテ面白キナリ

此三月○享保七ヨリ播州ノ山中ニヨキ家アルユヘ來年迄モヒキユ

モルベキカソノユヘハ殊ノ外應接ツヨクテ存念ノトモ成就セズソ
ノウヘ餘命モナキトナレバ今一ツ徳ヲツム様ニシタキナリコノ前
故有ツテ三年籠居ノ中自家ノ一分ニシテハヨホド力ヲ得タト思ハ
ル、トアレバ今一年モヒキコマバ又々力ヲ得ント思ハル、幸土州
太守ヨリ三月分ノ秩クレラレタレバ艱難サヘスレバ當年一年ノ食
事ハアルナリ今一ツニハ關東ヘ下ルベキカト思フソノ故ハ關東ヨ
リ申來ルハ甚ダ王陽明學ハヤリテ過半王氏ガ學流ニナリタルトナ
リ然レバ道ノ昏蔽ナレバナケカシキトナリ故ニ一方ノフセギサモ
スベキカ幸コレモ舊冬ヨリ申來ル處モアリ又當年モ一大名ヨリ申
來ル如何両様未爲一決然ルニ來年マデモヒキコムガ上分別ト思ハ
ル、
舅タルモノ不義ヲナシテニゲ墻タルモノヲヨルベニセントセバ墻
タル者ヨセズシテ可ナリ其妻ニモ道理ノ筋大義ノ筋ヲ云ヒキカセ
ヤスカラヌハカヘスベシサモナクバヤハリ妻トスベシ妻タル者モ

同志ノ大義ヲ知ルモノナラバ去ル可ラズ
只今ノ將軍家モアノグヅミニシタトテハ中々望ナキトナリトカク
聖人ノ教ニモアル通り作ル者多ク食フ者少クテユソ治教ガ施ユサ
ルレドモコノナンノ役ニ立ヌ法師共ガ多クテ食フ者多ク作ル者少
ナケレバドウモ治教ノナラウ様ナイグイトシタトセデハ墻ガアカ
ヌ近代ニテハ備前ノ新太郎殿ナドガ大勇猛剛氣ニテグイトトナメ
サレタ惜キトハ學筋ガアシクテ殘ルトガナカツタソノ時ハ殊ニア
ノ様ニ法師ナドヲナカストハナラヌ時シヤニキミヨイトハナサレ
タ其科ニ下屋舖ヲ一ツ取ラレテモカマハヌコノ剛氣ハ近代ノ一人
ゾ會津中將殿ハ仕方ガヨク殊ニ山崎先生ニキカル、ユヘ今迄殘ツ
テヨキトモアレドモ剛氣ハ中々新太郎殿ノ様ニハナカツタゾトカ
ク何程切レ物デ正宗デモ小刀デハキレヌ何程大キナ刀デモアナラ
ヘウテバヒヨロリユナラヘウテバヒヨロリトスル様デハ墻ガアカ
ヌトナリ

山崎先生ノ作書ニ少々吟味残りテ綱齋丈重固ナドガ手ヲ經テヨク
カシタルモアレドモ端ヲヒラクト云フガナラヌコゾヒライテアル
上ニ吟味ヲシ遂ルハシヤスイコゾカフナレバ山崎先生ノ功ハ大キ
ナコゾ中和集說ナドハ別シテ結構ナ書ゾコレガアレバコソ中庸ノ
中和ハスンダモノゾサテ端ヲオユシタ上ヲ吟味シテヨウトリマハ
シテスルハ後世ホドユウナルゾ

小學四十而仕トアル尤千萬ナルコナリ余二十餘歳ニシテ母ヲ養ハ
ンガ爲ニ阿部豊後殿へ出タリ若キ時分ノコユヘ隨分出處ヲ吟味ス
ルコト思フタレドモ誤リタリトカク餘程目ガアカヌデハナラヌ
コユヘ古人ノ定メオキシ通りガ尤ナリ

君子難進易退尙齋先生コノ語ヲ引テ自身ノ土州ヲ去リ秩ヲ辭シタ
ルコトヲ話セリ
默識錄ハ大切ナルコノミヲ擇リ出シテ書キ置クナリ
此度七月壬寅關東下向ニ付テミナニ申シ聞ス別ナルコトニハナイゾ只

一身ノ義理ナリニナル様ニソノ身ガロクニナケレバ何程義理精密
ニカタリソレガマコトデモ役ニ立ヌミナウソト云ニ落ル大義ノ處
ヲヨクくツ、シムベシ

ソウタイ易ヲ問フニハ一ツニ片付ケ占ハネハ封交ニヨリテドウモ
見ラレヌコアルナリ後來ト筮スルモノ此心得デ占フベキコナリ
先生強ク御老衰ナサレシ故トカク少シニテモヨキコナ早クシタク
思召スソレユヘ土井大炊殿ニテモ書經ヲ講シラレシ上ニテ二典終
リテ三謨ヲ講シカ、ラル、時ニ仰ラル、ニハマヅ三謨ハ講ズマシ
ソノウヘハ何程云テモ行ハル、筋が見ヘズ然レバ何程云テモ役ニ
立ヌカラハコレヨリ俗ニ云ヌ劔勝負ニテ參ルベシト云ヨリ老中用
人ヲ引付ケダシク云述レバソレハサシツカヘイカヌナド、云ル
ルソレユヘ成程サシツカヘルコモアルベシ然ニソレハズウト肩ヲ
入レズシテサウ云コハナンノ役ニ立ヌ肩ヲ入レキツテソコデコ、
ハサ、ハルユヘマヅカフト云筋ハアル筈ゾト云ヨリソノイカヌ

書ヲキタル鈴木十左衛門儒者ミセヨトアル時半時バカリニコトゴ
トク埒ヲ明ケテミセタルナリソレヨリシテ祠堂モ立テ講堂社倉モ
出來ル筈ゾ

扱最初云通り双劔勝負ナレバ内府様召ストテモ講書ハ御斷リ申ス
ベシ双劔勝負ナラバ出ベシ諸大夫モ何モカマハヌゾ
ソフタイ與風シタルトヨリ權ガ下ニマワル者ナリ佐竹壹岐守殿ナ
ドノ權ノ下ニアリタルハ前年老中ニヨカラヌ者アリテ下怒リテ正
月ノ禮ヲツトメマシトテ引込タリソレヨリシテ家老職ヲ取上ラレ
タリソコデ下ニ權ガ付タ此方ガ云分ニハ善ラヌトテセバ家老ニテ
モ職ヲ取上マシキ者ニテハナシシカシ一家ノオモリニ敵對シテ引
込タルモ私ナリ然レバコレヲユルシテオクワケハ有ルマシキトテ
コノ中ニテ博奕ヲシタル用人一人密通ヲシタル者一人ヲ追放シタ
リソレヨリ權ガ上ニ歸シタゾ
ソフタイ治メテ教ルナリニ下ノ物ヲカリテハ第一コ、ニハヅル、

故ナラヌトニシテシカモ下々學ニ向ハヌナリ此度佐竹殿ヲ辭シテ
歸リシモ當冬ヨリ家中ノ物ヲカリラル、ユヘコレヨリシテナリ
トカク何事デモ遜以出之ト云トナイハアジ、ソフベツ儒者ノ通患
デ已レニアテル定規ヲ人ニアテル已レガヨクナルデイヨ、人ノ
非ガ見ヘル者ヨク、謹ムベキトナリ

人生凡百年ナレバグシ、シタルトニテハ役ニ立ヌトナリツント
思切テシテ見ルガヨキナリソコデナラヌハ思切ルベキトワヅカ
年ヲ空シク過ストナカレ
今世四方上下道ノオコルベキイキカタ見ヘズ只我等ノモノ身ニ求
テ願ルノ時節ナルベシ
トカク人ヲ願ズシテ自ラツトムル時ト見ヘタリ何方モ學者ニコト
カケテ發ルベキ勢モナリナヤメカアルナリ
我道如絲四方人牧志學ノ輩各クヅレ立テクルコノ時節ニアメリテ
各引込テ我道ノ光ヲナスニアルノミ然ニ退イテモ定ムハ、

タコデハ役ニ立ヌ臂ヲ張リツメルノミ張子答朱子比聞刊小學版云々全集二十版一十一可見

ソウタイ小學ハ終身アレハナル、コデナシ大學ノ誠意正心モアレハナル、ト禪學ニナルナリソレヲ只淺ハカナ様ニ思フテクラス培モナキコナリ

程朱ノ學モトヨリ良知ナスツルニアラズサレドモ氣質人欲ニ蔽ハレテソノ知明カナラザレバカ子ニナラズ因テ聖賢氣質人欲ナキ人ノ云ヒオケルナセル道理ヲカホニシテ内ノ知ヲ明カニスルナリ譬ヘバ窓ヨリ明リナトリテ内ヲテラス様ナル者ナリ王氏ハカノ良知チカ子ニシテユク分別ナリ氣質人欲ノ蔽ラレアルナントカ子ニナラフヤ

凡ソ人ヲ相手ニシテトカフ云カラ説ガアラフナツテクルゾ聖賢チ目當ニスル者ガ人ヲ相手ドツテトカフ云下ハナキゾソウタイ入り場ハ義ヨリナリ義以爲質トアルソアトガナイデワル

イナリ

大知ハト云テソウタイ知ハソコヘト沈ムモノゾ上ハベ

デナラトナラツクハ實知デナイ筈順利ガ病ハコ、ノコゾヨク

ツ、シメ○順利ハ久米先生ノ名ナリ

只々一向ニ學ニフミコム者少キナリ世間ノ應接ニマギレテチリユムコナモ得チリコマヌ

心ハ人心道心アツテサテ私欲ノ起ル處ハトイヘバコノ五尺ノカラダニ欲ガ出來ルトカノ滋味深切ナモノチカラシテクルゾ

ソウタイ六十四卦ノ畫ト著トガイキモノニナツテオルナリソウタイ精神ガアルトコノ茶ビンデモイキモノニナル

易ハ潔清精微ト云サツバリチントシタ者ガトントノ基本ナリアレガ天地ノ造化ナリノサツバリチントシタ者チカキツラネタ者ナレ

バ吟味スルニモソノ意テナケレバウツラヌナリ
因其所發コレ初學入頭ノ處ト知ルガ第一ゾ何程氣質人欲ガ蔽フテ

モ本體ノ明カニテリヌイダ者ガ有ツテクアラマツテガルカラシテ少
シノ穴カラデモ光ガ出ルモマ内ハ全體明カデオルソコヘ入レテク
ルコゾコ、ガ格物致知ノ入リ場デ知モ力ガ出ルトソトノ蔽ハレハ
自然ニトレルユ、ガトント補傳ト相契フテオツテ已知之理ト云ガ
所發ノコデ朱子晩年ノ思召ニテ先輩ノ論未説到處ナルゾヨク、
工夫涵養モマ彼玉氏ガ良知ヲ人欲ニ克フト云テモ知ニ力ガツカキ
ハナラヌコゾ順利按日光浮雲ニ蔽ハル、ト云ヘドモ本體ノ發ハ明
ガナリツレユヘ浮雲ノ少シセラクルト日光全體ガツレカラテツテ
ホツテソワアル處ヘ陽氣ガツミ、シテ日光ニ力ガ付テクルト浮
雲ハ去ルツソノ上デ風ガ吹クト猶早ク浮雲ガトレル自然ヲ知ノ力
ガ出來テ人欲ノ去ル處ヘ克己ガクツ、クトズカ、トムスナリ
綱齋先生冬日トイヘドモ夜モロク、ヤキルコゾク夜着一ツチキト
シトソレチキチチラレタツノ脇ハコト、ク書ツサテ、今思ヒ
ヤラル、

天木時中道學標的講義結リテヨク云ヒトリタリ就申講後ニ人六七
十ニシテハナニ、モセヨ德成就ノ場ナリ二十三ノ志スホドニ六
七十ニシテ成就スルナリ然レバ二十三ノ時志ス處小チレハ小ニ
成就ス豈アヤマルヤケシヤト言得テ的當可省ノ尤ナルモノナリ
仁ノコト常々云キカス天理全體ノ心ニソナハツテ滋味親切ナシル
ノタルト云様ナガ仁ツソノシルノタルト云様ナ處ガ愛ノ理ニテソ
ノ愛ノ理ナリガ全體ソ
モ、ガ無聲無臭ヲモノナレハ圖モカ、レサウモチイ者ナレドモ太
極ノカウト心ニウツラヌトハナイゾウツルカラハ無聲無臭ノモヤ
ウガナサル、コゾ都テカ、レヌコチカキ出スト云コチニホドモア
ルゾ周子ノ朱子ノト云ハ其知生知ト云ホド、コチナレハ黃魯直ナド
ガ非ヲナル、ハ不知量ト云モノゾ太極ノ無聲無臭ナレバトテドウ
ト心ニウツラヌト云コチハナイツウ心ニウツラヌト云チレハヤク
タイモナイコゾ

朱子ノ仰ラル、通り夢ニツイニ見ヌ處ヲモ見ツイニ知ラヌ人ニモ
アヲハ萬理我ニ備ルカヲト一物ミナ一理ミナ一理一氣ナレバ石ノ
中ニ木ノ葉モアル筈

孔子ノ周公ヲ夢ニナサル、ハ道理自然ノ感通ナレバ周公ヲ夢ミナ
サレヌハゴウカ始ヨリハ衰ヘタ様ナレドモカフデナイ聖人ノ心天
ノ氣運ト只一枚コト天運ニ未ダ時勢ノヒキカヘサル、者アレバ孔
子ノ夢、モ周公ガミユルナリ時勢ガ引カ合サレヌト周公ハ夢ニミ
ヘヌナリコレハ聖人ノ身ニハアツカラヌ天運時勢ヨリナリソレデ
陸勢ガヒキカヘサル、トイツマデモ周公ガ夢ニ見ヘル徳ノ生熟ニ
ハアツカラヌ天運ニアツカルコト先生曰然リ天運ガ衰ヘネバ孔子モ
衰ヘヌト云フジナ面白イコト

中庸堯舜ノ禪讓湯武ノ放伐マデ平常ヘツメテアルハア、大キカト
ナリ朱子ノアノ様ニツメサレタ程ノコトナケレバ堯舜湯武ハ
ナサレヌ筈ノコト道理デツメテ見レバ萬民ヲ保テ養フテ各其所ヲ

得サセル程ノ天ノ名代ナスル人デナケレバ萬民ガ尊奉シ天ヨリ云
付テ君ニハセヌ筈ノコトソレニ違フハ君デナキナリサテ去年ノ飢饉
デ思ヒアテタアツコトモ千人コトモ百人ト云様ニ死スレバ天災
デ此方シキサヘアトヒシクモノアル況ヤ虐政デソレヲ至誠惻怛
ノ仁心ノ聖人カラ見テハ居ラレヌ筈ノコトヤマレヌ筈ノコトノ順利曰
況ヤ天理ノ生々ノ心ヨリ見ル時ハ天心ヲハナル、カ知ラレル先生
曰然リ

東周ヲセンカト云テ成程云通り語類ノハツメテ云タモノ東周道行
ハルレバ周ノ天子改命ノ時ニモ至ルマデレドモ天下ヲ引テ服事ナ
サル、文王ノ様ナカ出マイ者デモナイ孔子ノ改命セフト仰ラレタ
コトデナシ

伯夷叔齊ガ武王ノ伐ヲ諫メタハ文王ト同徳ナリヤ順利曰文王ノ徳
ハ中々賢者ヲ及バル、コトニアラスアレハ天命カサクツノ上伯夷ノ
風ノ聖ノ清ト云ヨリナリソレデマツ權ハ義理ヲ精微ニ聖徳ノ人デ

ナケレバナラヌ常道ハ誰々モ行ハル、コニシテ文聖クナサレタハ
常人ノ常ヲ守ル様ナリニ比モラレヌソノ義理精微ノ權ト云上ヲコ
シタ聖徳ノ妙ナリ先生點頭シテ自然リ伯夷ニハ天命ナク文王ソハ
ナカク聖徳ノ妙デ一口ニハ云レヌ
堯舜ナドガ宮中ニ只御坐ナサレテナントスルコトモナク已レテ恭ク
スル篤恭ト云テ天下ガ平ニナルト云其妙誠ニ無聲無臭ソ道理ガ元
來無聲無臭ナモノソナリニナルト云ハ面白キコトナリ先生曰敬ハ
聖人ヨリ常人マテ徹上徹下學問ノ始終ヲ貫クノ意三十三章ヲ敷衍
辯論セズシテ明カナコトサテ聖學ナドハ至極卑近着實デシカモソレ
ニ殊ノ外高キコトナリ老佛ハ高キソミユハ却テロキ、ゾコ、ラニ面
白イ味アルコトゾ聖人ノハ至極高クテシガモ至極着實卑近ソ今ノ學
者マツ急迫ナガ寧日ヨシ悠々デハ得ラレヌコトナリ
ソウタイ年ヨリハ四支ガブセウニナルソノ様ニ心モマダブセウニ
ナツテ思ヒサメグラスコトモ至極精微ノ處ヘメグラシニクシ聖賢ハ

サウモアルマシケレドモ此方ナドハカフソレユヘ朱子モソウタイ
勤ハ三十四ノ間ニアルト仰ラレタカナリ
順利曰程子ノ所謂論性不論氣不備論氣不論性不明ト理一分殊トノ
語ハ道體全體ニアツカレ妙語ナリ天地ノ間聖人ノミト云ハ論性不
論氣ナリ氣ニ善惡アレバ理ニモ善惡アル様ト云ハ論氣不論性ナリ
理ニ惡ナキニ氣ニ惡アルト云ハ理一分殊ニヘナリ先生曰然リ
本原ノ學ヲセヌ者ハ日用ノ上ニ精彩ガナクテ只ウバカ、ノスル様
ナリサレドモ先ヅ朝寐ハセヌ懸ルイコトハセヌリナギニ君ヲ大切ニ
思フ親ヲ大事ニカケルトアノ小學底ノコトノ地盤ナクテハナラナド
モ多クガコレヲ善トシテ本原ニトマカヌ
我黨ノ學者年々講究ノ力ニテ文字ノ力往日ニマサヌニテモ無レド
モコノナリニテ聖賢ニナルベキヤト考ルニ受合難シコレハドコゾ
ニ工夫欠ルコト見ユ急迫ニナルベキコトナラナドコレヲ心ニ存セ
バ一旦大寐ノサムル時アルベシ順利曰トカク性善ト云ニズツシ

合點ナク吾心ノ存不存性ノ養不養ニ氣ガツカズ格窮モタレウハノ
ソラニテ知テ不去ト云テキツト知ニ守リノツキ養ハル、コナキユ
ヘサテドデウモ我心身ノ功夫ノ思ヘツ、モ外ヘ馳ルカラト思
ハル、先生曰然リ
非禮云々ハ勿チダシナカレトモ下知詞ノ様ニナルアレハ禁制
ノ字ヂカヘテ見ル合點已レガ私デミルコトナミル上ニ禁制スルコト
下同シ
ソフタイ一ツカフト格別ニ思込アルヨリハ殊ノ外取違ヘルコトアル
モノナリユ、デ氣サ付ルコトスベテナシトナキ平易ノ中ヨリカフト
出來ルガ本法ノ一トハツミア、カフト出來ルニハ危キモノアル
サレトモコレカラテナフテハ學問ノアガリハナシ
スベテ文章者ノ文ハ理ノ端的ガヌケルナリ韓文ナド讀ンデミル時
ユサテモア、モカ、ル、カト思フ程ニテサテソノアトハナンニモ
ナシソレキリノコトナリ

隨分大中至正ノ道ヲ目當ニシテ教導スベシドウデモ知ヅリ行ヅリ
人々氣質ニヨルモノゾ大中至正ヲコレマデ目當ニシテモ仕落アル
ベシト自分ニモ思フサレドモコレヲ目當ニスレバ人ノ長ヲ取り短
ヲ自反スルヨリコ、ノカチヲ違ヘヌゾ吾黨ノ學ハ餘ノ學者ノ埒モ
ナキト違ヒ規律ヲラムガ大事ゾサテコノ目當ナレバ互ニ丸クナツ
テ中ノアシクナルコトハナキツ
康助云處ノ誠意ノコトクト吞込メズ知ノリン、トサヘタル處ヲ
欺クコトハナラヌ欺ト云ハ知ノドミルユヘソコガ知ノアトモドリト
云モノ然レドモアレ程ニ力ヲ用テラレヌコトサテ一體ノ身持モヨシ
クシユヘ不變塞ノ文字ヲガキオクレリテナリニ持テツメレバヨ
シ
上古ハ天ニ近シレバ周公ナド金縢篇ニア、云テアルモサモアルベ
シサレドモ後世ノ天ニ遠ヲナリテ理ヲ推立ル上カラハアレデサヘ
小首ヲカタケル様ナ怪シク思ハル、コト文王陟降云々モソレト同

シテ語類ニ微妙ニシテ難説トアレバタマデハナキト思
ハル、順利曰禮記ニ孝子ノ事親ヲ云ニ聲ナキニキ、形ナキニミル
トアルソノ親ノ死ナレタニ事ルモユノ通りナレバ周公アドハアリ
ト文王ノ陟降ナサレテ子孫ノ福澤アルト思召ス筈ゾ先生曰然
リ孝子タルモノ生世ニ父子トトシテ一體ニナツテ心ガユキ合フテ
アルカラ死ツテ鬼神トマタ一枚ニナリテオルソレユヘ著存不忘於
心トアル順利曰聖人ノ意ヲワシメテ天子トナラセラルレバ天ガ直グ
ニ親トナル筈ノコ先生曰然リ
經濟ノ學トテ外ニアルコニアラズ格物致知ノ力デソレノ理ヲ
明メルコトタトヘバ米價ガ高イサレバコトハドウゾト子簡スルノミ
ナリ順利曰論語ナドヲヨシテモ爲政コトヲ問フニ先有司云々トア
ル様ナ處サウカト通サヌガ眞ノ經濟ノ學ナリ先生曰然リ漢唐ノ間
ニサマシク經濟ノコト云タレドモア、シタコトデハナキナリ順利曰
サテ實事ト云モアシク心得テ事ニアラフサテバ實事デナキ様ニ思

ワカラ奉公ガシタクナルデシト心ニ覺ヘノアルカ直ニ實事ナリ先
生曰然ル小野崎會人ナドガ今ソノ場ニオルカラシテ學者ガ道理ヲ
書物バカリヲ窮メテ居ルヲ役ニ立ヌト思フコレナレバ末ニ走ツテ
本ヲ忘ル、以順利曰カフ云ト陳同甫ニ近クナル呂東萊ナドモ後ニ
カカフナラレタト見ル先生曰然リ東萊集ヲ讀シテ見ルニ仁ノ敬
ノト云吟味ハナキコト
舍輝集抄 久米訂齋先生遺集 卷一 論 一 禮記 孝子ノ事親ニ
主立春ノ日 春立ニ至リテ 春立ニ至リテ 春立ニ至リテ 春立ニ至リテ
たけせぬを道のしるしと年の内に春立つ今日と霞初けむ
老ぬれは年の名残も身存もみて合夜ひさよは惜まれそする
夏中遇桑名主人之新昏賦一絶贈之
鷄鳴女曰此數聲。夏曉睡深勿怨情。文王生聖猶內助。閨門儀則興家名。

むつまじき妹背の中も忘るなよ曉なきのけふのつとめを
 曉に鐘の音をきいて

秋にすむ曉の音をきいて
 絶やらず夜の間にする我心この曉の鐘にきかける

冬至詩歌
 生物天心不絶来。知陽南牖一枝梅。往時聖王閉關日。身上本根裁又培。

向陰始見水中氷。既懼氣寒自夕凝。幸有一陽來復下。善心一點勉兢々。

つゝしめよ天の心を見るけふの我身にありてへたてなければ
 前谷味池三子に送る和歌

分け登るみ山の花をなかも人もしらぬ道を道なかへそまよ
 自畫贊竹畫

有節又直。柔中含毅。小子正字。體身當味。
 實曆戊寅秋。自畫一贊。與得能適長。

又梅畫

此樹有實。此花有香。德欲似實。才欲如香。

實曆戊寅仲秋。自畫一贊。與得能第二龜子。

先生崎陽洞雲之所筆。掛敬義二字及其目於學堂壁上。其傍先生自
 書云。柴田子之言也。誤字ヲリノ

壁立千仞者。學者立志之基。敬義二訓。終身之修用。順利教諸賢。無他。因示
 於歲首。柴田子久米順利書

愚問其謂大村子。曰。戊寅之歲。掛清人之所書壁立千仞之大字。
不情至鷄胆。而易敬義。有是言也。柴田敬河崎氏勤於學。護賦五言以贈。勝之言

天源長不息。道躰具人心。勤學日新處。續聖門絕音。
 實曆九巳卯歲孟夏三日

こと問へよ見てしる事の過行かは聞得し人の跡を慕ひて

獅子畫贊

獅子奮迅。百獸腦裂。

寶曆十庚寅正月令日

禮義相先 勿爲 爭

若有 不論大小輕重退。

嚴謹丙王

燈火烟草火亦止子刻

不許出居舍雜談別舍

學論疑問爲制外

大村庄次中村文之進月番火本吟味可有之

二月十三日

舍中不得巡行候間左様御心得爲 候也

二月日

訂齋

禁帳中挑 舍中衆

奉酬難波君賜七年酒

釀作七年酒一樽。東關携賚醉君恩。三盃豪氣慕朱子。李白百篇不足論。

辛巳試筆

年々相遇太平春。曉鼓聲中萬物新。好見天機生意發。幽窓自得厭貧。

むそし三つのとし心にかくと思ふことを

誰に告む天つそらしれむそし三つ猶古の道尋ぬとは

新年奉尙齋先生

こゝろさしいや高かれと教うけし道をむるへに猶たとるなり

贊愛蓮圖

不去庭前草。獨憐池上蓮。光風霽月意。千古照寒泉。

寶曆十一辛巳歲季春

贈柴田氏病中

病來不免聖賢身。精義平生在養神。今日臥床無俗事。誠求心上靜中仁。

偶感

千歲豪雄無極翁。源流不耻洛伊公。大成今慕朱夫子。吾黨諸賢歸不同。

天地の中にこひしき物ひとつ世の人々の願にはあらて

右寶曆十二壬午正月二十四日謹録

伊藤氏の故郷に歸るをしはし留めてけふしも伏見の里の梅を尋ねけれり

別路をしとし留めて諸共に伏見の里の梅を尋ねつ

醉にまかせてされ歌

かへむなんいさはからか面白し醉にまかせて歸る道芝

政務考抄一條

ソウタイ實生ニテナケレバヨキモノ出來ヌ今鶏ノチヤボチユシラ
ヘルニモフ大キフナリソコナヒタルハナラズ小サキ内ヨリノシ
イレゾコレト同ジコトデ幼稚ノモノ、仕入レガ大切ナルヘキコカ

辨倫說抄

曰不娶廢大倫シカラバ今貧乏ニシテ勢ノ及バヌ者モ無理ニ娶ルコ
カ曰コレ欲潔其身廢大倫ノ論ナリ古人祿仕ヲユルシ爲貧隱醫ミナ

奉養俯育ヨリツ時勢テ妻ヲ娶レバ飢寒ニ及ブト云様ナレバソレハ
天命サレドモ飢寒ニ及ブトテ親ハステラレマシ親ノ血身ヲツバケ
ル妻ヲステル理アラシヤ飢寒ヲ脱ル、程ノコハ力量サヘアレバ兎
モ角モナル乞食サヘ妻子ハヤシナフツ妻子ハ累ニチラヌ繼嗣ノ謀
ヲシテ見テ人事ヲ盡シテミテモイカネバソレハ天命ゾアタマカラ
累ニナルトテ妻子ヲ棄テ、絶嗣ハ不孝ニシテ釋氏モ同ジコトゾ
曰不仕無義シカレバ奉公セホバ一向君臣之義ハ無キカ曰不然顔子
ノ如キ一生隱居シテモ道合ト出ルト云モノヲ持テ居テ隱ル、分ハ
君臣ノ義ナシトハ云ハヌ筈コレガ身之去就事之可否皆義ノ中ニア
ルト云ガコソコゾコレヲ云デハナシ今人君ガ招クニ頭マカラ道ガ
行ハレナイト後來ノ去就ノ難キヲオソレテ出テ爲シテミヌハ氣量
ナキヨリゾサレドモ一タビ仕ヘテヒマノ取ラレヌト云様チ家ヘハ
行レヌコレガ則事ノ可否ゾコレヲ了簡スベキコトゾ

享保十九年甲寅十二月廿三日

志學論

段々學問ノ思召被仰越致承知候京地御勤學ノ中鄙意得御意候ヘド
モ其説ノ處々欠ケ有之候ヤ又ハ鄙意御聞違候ヤ少々鄙意ト相違ノ
處有之候ユヘ此處曲折書付入御覽候御存知ノ通り古ハ未有知ノ時
ヨリ小學ヘ入レテ取其放心養其德性及其長テ進大學窮其物理盡其
精微候ヘドモ異邦デサヘ後世ハカフ行カヌユヘ程子ノ敬ノ一字デ
其欠ケヲ補ヒ居敬窮理ノ教ヲ立ラレ居敬ハ養德性ノ工夫窮理ハ道
問學ノ工夫デーナ欠レヌトニ候ユレモ天地陰陽自然ノ理ヨリ出候
コニテ作爲ニテモ見立ニテモ無之候サレドモ世ノ學者居敬窮理ノ
學者工夫ノ當然トハ知レドモ所以然マデツメヌカ或ハ偏居敬或ハ
偏窮理ニ流レ申候居敬ノ工貫動靜窮理ノ力徹内外トハ乍申居敬ハ
未發本領ヲ涵養スルガ主ニシテ屬靜窮理ハ即事物窮其理知ヲ充ル
ガ主ニシテ屬動候然レドモ天ノ一陰一陽ニテ道ノ全キガ如ク人ハ
居敬窮理ニテ道ヲ全クスルコトヲ得候若シタゞ實ニ實理トノミ申シ

候ハ、未發ノ場ノ工夫ハヌケ申候サレドモ精微中庸ニトシテクハ窮
理ノ工夫ニテ候カフシヤトテ居敬ノ工夫ヌカレ候ヘバ心ニシマリ
ガ脱ルカラ聞學ノ力モ精微ニトシカズ候學者ト云カラハ心ノシマ
リヌケヌ様ニヨビサマシクスルガ常惺々サウヨビサマナリサシ
ツトシメルガ収斂ノ法ニ御坐候道躰ノ見アラバ居敬窮理カ、レヌ
トモ明カニナリ可申候居敬ニハ德性ガ涵シ養ハレ候ヘドモ無聲無
臭ノ德性ユヘ渾然ト精微中庸ガ分レ不申ソノ天ヨリ受得タ德性ヲ
養フテ窮理ノ力ヲ用レバ粲然ト條理分レ精微中庸ガ盡サレ候實ニ
道躰ノ我ニアルコトヲ知ラバ居敬窮理ノ工ハカ、レヌトニ御坐候猶
更御考御覽可被成ソレユヘ順利有一言。曰。居敬窮理ニ陰一陽之道。而
敬心之貞也。知心之妙也トノミ

延享改元年五月廿一日

白鹿洞揭示筆記抄

白鹿洞ノ揭示ハ學ノ學タル端的ヲ揭示シナサレタ者ニシテ學者

ノ法則ナリ聖學ノ俗學異端ト異ナル處揭示ホド親切ナルハナシ其
レ故道牀ヲ語ルニ仁義禮智信トモ云ハズ太極トモ示サズ明德トモ
云ハズ性ノ實ヲ著シテ父子有親君臣有義夫婦有別長幼有序朋友有
信トアゲ出シナサレタ老佛ノ心法サタハ道牀本源ノ工夫ヲ用ルニ
似タレドモ此ノ性ノ實ガナクテ佛氏廢五倫老子亦斷事物然レバ何
程口デ云テモ心法ニ目ノ明ヌト云端的ガ知ラル、根ノアル者ハ萌
シテ出ヌコハナイ此ヲ惻隱羞惡辭讓是非デ云テモ釋氏ノ無緣慈老
氏ノ王公大人ヲ事トセザル皆惻隱羞惡ノ心無キニアラズコノ性ノ
實ニ至ツテ底ヲ拂フテナイデ異端ゾイヤトモオウトモ言セヌ處
俗學者非不言性非不言情サレドモ親ニ君ニ婦ニ兄弟ニ友ニ親義別
序信ヲケレバ非知性非適情是又俗學爲名爲利ノ見ル處ゾコトモ我
學ノ目當證文ニナルト云ハ此ノ實ノ處ニアルゾコトモガ朱子ノ端的
親切ノ思召ニシテ大學ヲ掲ゲテ示シモナサレズ格別ニ一ツノ則ヲ
立ナサレタ者ゾコトモ山崎先生ノ御見トリナサレテアノ玉山講義

ノ理性命ノ吟味ノ書シカモ仁義禮智信ノ備ヒ倫スル中卷ノ末ヘ會
津大守ニ載セシメラレタツ然レバ今日ノ學者人ノ一身五倫ノ具ハ
ルコトヲ克クク考ヘテ實ニ爲己ノ目當コトモソト思ヒテ學ブヘキコト
此ヲ忘ル、ト異端俗學ゾサテコノ實ノ至極ヲ盡サネバ復其初ト云
レヌデソコトモ爲學ノ工夫ガ跡ニ載テアルデ此ノ目當ノ至極ヘ至ラ
ル、トソ兎角學者空論ヲ止テ此ノ目當ヘ心ガ向クカ向ヌカコト目
當ノ極處ガ合點ガイダカイカヌカト工夫ヲナシ勉メバ聖學ノ聖道
タル熟シテ后可得豈朱子喫緊爲人ニ非ズヤ

享保十六年二月二十七日

久米順利再拜謹記

伏乞

尊諭

右所論の聖賢示人之意甚切當。即所謂三代之學。皆所以明人倫之意也。

尙齋

玉講附録中卷末章大意抄

玉講附錄ノ中卷ノ終リニ白鹿洞揭示ヲ載セラレタハ會津侯ノ大眼
力ガ知ラル、先ツ太極陰陽ヲ縱横十文字ニ上ノ二卷ニ朱子ノ語ヲ
アゲテ中卷ニ五行ノ朱語載セラレタハ太極陰陽五行ヲ天ノ道躰ハ
根ヲラヘスンダ時ニ中庸ノ程子ノ言ニモ放之則彌六合卷之則退藏
於密トアル様ニ天ノ道德ヲ太極ノ一理ヨリ放ツテ五行ニイヒツマ
メル中ニ天人合一ノ心性情ヲイヒ盡スハ朱子所謂道之本源出於
天其實躰備於己カラゾソレユヘ中卷ノ終リニ是ヲノヤテ性ト云テ
モ無聲無臭心ト云テモ無形躰カラ道躰ノ昭著定躰ニ活潑々地ナル
ヲ喫 爲人ニナサレタモノナリソレヲ李退溪ノ道躰ハ全ニ不及ト
ハイカナル見違ヅヤサテ會津侯申卷ヲコレヲ結バレタハ玉山講義
ガ性命ノトナレドモ學者用力ノ爲ナレバ其性命ノ至親至切ノ是ヨ
リ外ナク是ヨリ内ナキコノ五教シヤト云トヲ擧ゲラレタデ上ノ卷
モ下ノ卷モ道ノ本源ガ備己テ實躰シヤト云トヲ知ラス編集也ナレ
バ性道教作爲モナク思慮モナク道躰ハヘヌキシヤユヘ小學ノ小モ

コレヨリ内ナク大學ノ大モ是ヨリ外ナキカラ孟子ノ皆所以明人倫
也ト仰ラレテ曾子モ大學ノ至善ニ人倫ヲアゲ子思ノ中庸ニモ修道
以仁ト仰ラレタヲ朱子章句ニ道ハ天下之達道ト解キナサレタツ

贈前谷味池二子

華洛時稱名四布錦繡。二子棄而赴東。以情則此景可惜。以義則何留心哉。
蓋志士生也。窮則獨善其身。達則兼善天下。成與不成。命也。唯道則責成於
已而已。二子夫勉乎哉。

古語曰。孝百行之本。萬善之源。

順利按。本心之仁愛。先發而親切者孝也。故以之事君則忠。以之事長則
順。極其大。加於百姓。刑于四海者。亦不外之。豈非百行萬善之本源乎。

寶曆十一辛巳歲中秋十一日

偶記

初冬廿二日。夜既過矣。洞然眠覺。風靜雲晴。四方無聲。虫鳴亦絕。唯片月照
窓。而寂然虛明。偶感我心矣。夫曉來之萬形。真藏於此中。上天之載。無聲無

臭。而實萬象森然正可知。此時。蓋人心太極之至靈具此身。而實所得於天也。故夜氣所存。本牀呈露。未嘗息。學者因之居敬以存心養性。窮理以精義入神。則至聖人之道。豈遠乎。豈遠乎。

東山遊花記

華洛處々。暮春鳴花。東山其賞也。賞之宴之。又各殊焉。或賦詩詠歌。或促醉於酒。又爲興於三絃矣。然是皆世人之常態。非志士之情矣。蓋和順積於內。英華發於外。以是觀於花。感於花。嗚呼幾人乎。夫人亦有心。果將與誰哉。

再遊花於西山記

東山昨於花。今又尋花於西山。杖鄉之老。似學少年。詩曰。今我不樂。日月其慆。卒曰。好樂無荒。良士休々。此遊也。夫斯然矣。不寒不暑。和煦合於情。不重不輕。單袷快於躰。不寬不肅。從者同心矣。夫天地之生意。雖貫四時。春者生之生也。尤觀天地之心。而花者生意之著也。往昔周子窓前之草不除去。曰。與自家意思一般。我今對花亦希之云爾。

庚辰春二月既醉樓謾記

夫春生一氣。貫徹萬物。不言而喻。不動而變。千紫萬紅。百之綠白。回首則爲風。開眼則焉景。伴友者。歌舞雪之興。登閣者。皆王勃之才。成宴於桃李園。又遊於梅柳江。千狀萬態。雖有得失之殊。皆是起於發育之妙焉。嗚呼春乎春也。唯仁者而後可正知此味矣。

秋夜偶感因書

夫無情之物。風動之則鳴。况有情之物乎。是以秋即金。而諸虫之吟。無甚於此時。故古人曰。以虫鳴秋。蓋物循時而能感也。然人者萬物之靈。而有情之長。豈如物之各感於時而已乎。是故以春感仁。以夏感禮。以秋感義。以冬感智者也。今則時秋也。所感義也。勇猛奮發。惜秋日之短。愛燈下之可親。夜以繼日。進而不止。則因其才而成功。嗚其世必矣。噫。夫勉之哉。閏七月廿四日書於燈下

書溫知錄後

嘗聞天理人欲不兩立焉。然義理存胸中。即人欲滅。人欲橫胸中。即義理亡。故古人讀書講學而明之。踐履持守而實之。誠可念之尤者也。因乱拙朱子

之言。竊取於中庸所謂溫故而知新之意。而名以溫知。正克氣質之偏。而復天理之全者。非求記聞之富也。享保壬寅年季秋仲六日

今ヤ道學天下ニ明カナラズ先輩大家漸ク逝テ歸ラズ後進ノ士買々焉從フ所ヲ知ラズ此有志者ノ常ニ長歎息ニ堪ザル所ナリ抑今日ニシテ先輩大家ノ現ニ存メル者ヲ天下ニ求ルニ獨リ肥前ノ楠本碩水先生有ルヲ聞クノミ今ヤ高齡古稀ニ躋リ豐饒尙壯ニシテ依然斯學ヲ其郷ニ講シ玉ヒ實ニ一世ノ望ダリ近者先生ノ令姪君翔丈ヨリ左ノ事略一通ヲ寄示セラル因テ今此ニ謹寫シテ以テ讀者ニ示シ其高風ヲ仰ギ觀感シテ以テ斯學ニ興起スル所アラントヲ庶幾ス

明治三十四年十月二十七日

機 謹書

楠本碩水先生事略

先生。姓楠本。名嘉嘉。字吉甫。稱謙三郎。碩水其號。又號天逸。肥前國彼杵郡針尾島江下里人。考養齋君。諱某。妣中倉氏。兄弟五人。長爲端山先生。諱後

覺。先生則第三子也。先生少冒佐々氏。仕平戶藩主松浦氏。年甫十六。補藩學生員。歷句讀氏及助教。遂爲教授。又轉近侍。進小納戶頭。明治戊辰。朝廷使列藩舉可代國論者。名曰責士。藩議以先生充焉。先生稱疾力辭。時藩主在京師。懇切促起。諸有司又屢來勸說。先生不得已而出。進物頭班。加祿百石。五月。上京市。無幾。任會計官租稅司判事。固辭。不允。已而聘漢學講官。又除大學少博士。庚午秋。大學廢。而先生歸平戶。更賜家祿若干。先生不顧。直入針尾山中。結茅而居焉。先生既晦其跡。無復開塾授徒之志。然四方聞風來學者甚多。於是同志相謀。設舍於其傍。以便學者。既而不能容。又增一舍。亦不能容。又增一舍。絃誦之聲。琅々然響於溪山之間。然道之不行。先生早已知之。則固非其志也。及端山先生罷官家居。更建鳳鳴書院。相與講學於其中。一時益極其盛。針尾僻地也。以有先生兄弟。名顯于遠近矣。先生自少耻立人下。慨然有讀書之志。時淺野鵜蒰來寓隣北。先生朝夕就學焉。嘉永戊申秋。遊豐後。從廣瀨淡窓學。又入草場珮川木下韡村之門。皆無所得而去。安政戊午。遊江戶。受業於佐藤一齋。居歲餘而歸。初先生遊肥後。過長洲。

見月田蒙齋。蒙齋出其隨筆示之。至是以書質正。所得益多。一時名儒若金
霜山源潛菴大橋訥菴吉村秋陽池田草菴尼崎修齋。皆莫不納交。而與源
敬齋契合最深。嘗曰。吾交天下之士不少。而一見以知已相許者。敬齋一人
而已。敬齋亦嘗寄書於蒙齋。欲往見之。未果而沒。文久甲子春。先生如小倉。
展敬齋墓。又欲訪蒙齋於肥後。至南關。有禁。不得入而還。及後世局愈變。諸
老凋謝。無復間道於四方之患矣。先生平生最重自立。不苟與世合。而至其
勵忠孝謹名分審出處辨義利。則凜友乎不可犯也。養齋君之病也。死生在
肥後。聞之即起上程。晝夜兼行。至早岐。問涉夫曰。汝聞家君病如何。涉夫佯
爲不知曰。未詳也。於是投其所帶飯團於水曰。噫已矣。急走一里。至則事已
襄矣。先生以其繼他姓不能行三年喪。深自悔恨。至己巳春。請復本姓。併家
祿還之。先生憤慨武門專權。玉璽不振。每曰。不肯異姓。是孝之第一義。不仕
武門。是忠之第一義。及今上登極。天下一新。乃曰。吾願畢矣。及其晚年。謝
遣生徒。韜晦益深。獨以頌詩讀書尙友古人自樂。嘗曰。古人四十而任。吾則
三十九棄祿入山漢。光武明主也。而嚴子陵不屬。趙德遠賢相也。而蘇震卿

逃去。人各有志。不必同也。又曰。他日有修國史者。如列姓名於其間。則爲隱
逸傳中之人也。先生學博而不雜。於大學中庸。最有所見。嘗曰。大學是性學
之書。主知。故自格致入。中庸是心學之書。主行。故自戒懼入。朱子序文。於大
學言性。於中庸言心。爲此也。二書旣治。則語孟六經可不治而明矣。蓋窮理
存心之至。心與理會。而仁可庶幾焉耳。其學自山崎氏入。更進而有所得者
耶。明治三十四年。先生齡躋古稀。門人子姪欲作壽觴。先生不可。作詩曰。余
年三十九。都門掛冠歸。所學非所用。早已見其幾。今茲登七秩。徒生愧古稀。
於時無所補。難免世間譏。松柏樹久慘。棠棣華亦衰。爲告二三子。謹勿舉壽
卮。然情誼之不可已。再三請之。因又述其事略。頌諸同志。嗚呼端山先生已
沒。而先生巍然獨存。今爲先生賀。卽爲道賀也。乃賀之所以不可已也。

... 學問ノ進マズ言譯ニスルハ是レ無志者ノタハ言ノミ
... 此レモ言譯ニナルコトヲイフ全體聖人トシテ以下ハ其ノ氣質ノ偏
... ナキ能ハズ性ノマ、ニハイカサレバヨソ學問ト云フガア
... 學問ハ人々其氣質ヲ變化シテ其初ニ復ル爲メ學問ヲ行故ニ學ニ志
... アル程ノ者ハソノ氣質ヲ直サントコトヲ云フ氣質ガ以ルニテ
... ニクツタクヌル筈デナン又事ノ累多シト云ハ全體イカナル事カハ
... 知ラネドモ必シモ之ニ繋累セラレテ動クニ云程ノコトアルマ
... イ先ヅ其事ト云ガイカナル事ゾトソレカラ吟味シテカ、ルベシモ
... シソレガ俗習纏綿底ノ事無用不急ノ事ナラバアタマツバ
... リ棄テ、願ヌガヨシモシ又ソレガ果シテ人事ノ日用不可巳ノ事ナ

學談附錄 九

岩橋

或曰余氣質昏愚ニシテ又事ノ累多ク進修ノ效ヲ見ル能ハズ云々機
... 曰ソレハ成程氣質ノ昏キモアルマシ事多キモ有ルベシカレドソレ
... ナ楯ニ取りテ學問ノ進マズ言譯ニスルハ是レ無志者ノタハ言ノミ
... 些レモ言譯ニナルコトヲイフ全體聖人トシテ以下ハ其ノ氣質ノ偏
... ナキ能ハズ性ノマ、ニハイカサレバヨソ學問ト云フガア
... 學問ハ人々其氣質ヲ變化シテ其初ニ復ル爲メ學問ヲ行故ニ學ニ志
... アル程ノ者ハソノ氣質ヲ直サントコトヲ云フ氣質ガ以ルニテ
... ニクツタクヌル筈デナン又事ノ累多シト云ハ全體イカナル事カハ
... 知ラネドモ必シモ之ニ繋累セラレテ動クニ云程ノコトアルマ
... イ先ヅ其事ト云ガイカナル事ゾトソレカラ吟味シテカ、ルベシモ
... シソレガ俗習纏綿底ノ事無用不急ノ事ナラバアタマツバ
... リ棄テ、願ヌガヨシモシ又ソレガ果シテ人事ノ日用不可巳ノ事ナ

ラバ是モトヨリ自家ノ職分ナレバ自家ノ分ニ隨フカ之ニ應接シテ
以テ其當ヲ處スルヲ求ムベシソレガ即チ學者今日ノ實學ニシテ些
トモウルガガルコトナイサカチ是等ノ爲ニ學問ガ進マヌト云ハ必
竟學ノ學タル所以ヲ知ラズシテ別ニ一箇ノ藝ノ様ニ心得テ居ルカ
ラナリ其通り學ノ學タル所以ヲ知ラズ實工夫ヲ著ケズ只早ク其
效ヲ見ント欲ヌ丸テ學問ノ本意ヲ失フニ居ル何ヲ以テ其學ノ進ム
ヲ望マンヤ學者須ク學ノ學タル所以ヲ知リ氣質ノ不好ニ屈セズ事
ノ多キニアグマズ氣質ヲ變化スルヲ期シ着實工夫ヲ著ケ一意意ヲ
於直前做將去ルベシ必ズ成ルノ時アラン徒ニ眼ヲ功利ニツケテ速
ニ成ルヲ求ルコト勿レ
或疑フ斯學ヲ爲スト雖今日日用ヲ處スル能ハズト是レ甚シキ謬見
ナリ蓋斯道チ一種高妙底ノ事トシテ日用事物ト引離シテ見ル故此
疑アリモシ果シテ然ラバ彼ノ異端ト何ソ擇バン抑斯學體用全ク具
ル學者平生斯道理ヲ講明シ斯道理ヲ體察シテ之ヲ日用行事ニ施シ

テ其當ヲ得ルコトヲ求ム是レ斯學ノ實事ナリ然ルニ平生道理ヲ講シ
口高砂ヲ説クト雖日用行事ニ於テ茫然處スル所ヲ知ラザルガ如キ
ハ是空理空談ノミ如此者亦何ソ其學ヲ用井シ抑我道學ハ徒ラニ口
ニ高砂ヲ説ク者ノ比ニ非ズ實理ヲ以テ實事ヲ處シ日用行事其當ヲ
得ルヲ要スルナリ學實理ヲ講明シ得ルニ至ラザレバ以テ實事ヲ處
スルニ足ラズ亦實理ヲ處シ得テ其當ヲ得ルニ非レバ眞ニ實理ヲ講
明シ得ル者トスルニ足ラズ眞ニ之ヲ知テ實ニ之ヲ行フ是チ眞ノ學
者ト云今學者其學未ダ至ラズト雖亦其學力ニ隨フテ日用事物ニ應
接シテ其當ヲ求ムベシ是レ即チ實學ナリ然ルニ世俗卑近ノ見ヨリ
斯學ヲ見テ何ガ六ツカシキヨノ様ニ思ヒ道理ト日用ト別ノ様ニ思
フテ居ルニ少シクサレカ、ツテ見テモ十分ニ力ヲ致メズシテ益
六ツカシクテ一寸間ニ合ヌト思フニ上文ノ如キ疑ガ出ルナリ既
ニコノ疑ガアルヨリ遂ニ學ヲ廢シテ別ニ卑近ニ求ムルヲ免レズ又
世ニハ世ニ合ヒ俗ニ同クシテ世ニ合人ニ容レテ以テ之ヲ求ル者

アリ如此者ハ斯學ヲ甚ダ便トゼズ多方言ヲ托シテ大道ヲ避テ故ラ
ニ曲徑ニ入り荆棘ノ中ニ彷徨シテ竟ニ路窮リ適ク所ナキニ至リテ
回顧スレバ終身物ノ役スル所ト爲リテ一モ我ヨリ爲スアル能ハズ
竟ニ草木ト共ニ朽死セシトス悲夫嗚呼斯道學ノ明カチラザル往々
人ヲシテ此窮境ニ陥ラシム豈痛クハズニ非ズヤ抑學者自ラ斯學ニ
興起シテ進ンデ爲スアル能ハザルハ罪ナリ豈可憐ニ非ズヤ人何
自ラ進ンデ力ヲ斯學ニ致サザル
或云人有用ノ材ヲ成シ進ンデ時ニ爲スコト有シト欲スル者技藝ノ學
無ル可ラズト嗚呼可哀カチ何以其眼孔ノ小ニシテ其見ノ陋ナルヤ
一度多リトモ論語ヲ讀シ者ハ其覺ヘアルラン夫子嘗テ君子多乎哉
不多也ト仰ラレシニ非ズヤ技藝ハ聖人ノ尙ブ所ニ非ザルナリ故ニ
聖人ヲ學ブ者ハ技藝ニ志ガザルナリ夫レ君子ハ修己治人ト云大
任ヲ引受テ居ル斯事小技藝ノ能ク及テ所ニ非ズ豈特ニ能ク及テ所
ニ非ルノミナランヤ却テ害スル所アルナリ故ニ學者ノ志ス所モ亦

コト修己治人ニ存セザル可ラズ修己治人之學ハ即チ斯道學ナリ窮
則獨善其身達則兼善天下窮達ハ命ヲリ唯己レノ所當爲ヲ盡スベキ
ノミ然ニ初ニ其窮ヲ憂ヘ其達ヲ求メ修己治人之學由リモズレテ
小技藝ヲ以テ世ニ命シテスルハ君子ノ爲ザル所ナリ然ルニ或ハ
斯學ノ成ル難キヲ憂ヘ小技藝ノ成リ易キニ甘シテ言テ托シテ大道
ニ背キ小道ニ走リ入ラシトス必竟是レ眼孔ノ小ニシテ斯學ヲ擔當
スルニ堪ルハ脊梁骨無キヲ以テノ學者自ラ專ラ大道ヲ任シテ小
道ノ其ハ人ヲ使フテイタリ見テ有司存ト見テ居ルテキイ是程ノ覺
悟ヲナフテハ右ニ左ニ拘泥シテ斯學ヲ成シ得ルコトハナラズ抑修
己治人ハ小技藝ノ訣シテ能ク及テ所ニ非ズ斯道學由リモズレテ
ズシテ何ヲ以テ能ク己レヲ修ルヲ得シヤ何ヲ以テ能ク人ヲ治ルヲ
得シヤ天下共ニ修己治人ヲ外ニシテ復テ何事カ有ル然レバ所謂有
用ノ材ヲ成シ進ンデ時ニ爲ス有死者亦斯道學ヲ舍テテ更ニ何ヲ以
テシヤ

或云自營自活ノ境遇ニ在ル者ハ身家ノ計爲サル可ラズ仰事俯育
ニ基立ザル可ク故ニ技藝ヲ學講セザル身家ヲ立ル能ハズ仰事
俯育ノ基ヲ失フ事夫以テ仰事俯育ハ人立ノ大事其事ニ兼テ之ヲ忽
セヨスルコト得ズ出テ貧境ニ遇フ者如何カ之ヲ處セヨ云々
以テ誰々モ知テ之ヲ通リ孟子ガ正ク爲貧ノ法ヲ分明ニ示シ置テ
之ヲ因仕非爲貧也。而有時乎爲貧。集註云。仕本爲行道。而亦有家貧親老
或道與時違而爲祿仕者ト見ス。タリ以テ之ヲ祿仕ト云フ。士ノ本意ヲ
ナケレドモ已ミ得ズ時ニ以テ爲貧ノ路ヲ取リテ之ヲ祿仕ト
一事ニ限リタルコトハ非ラズ時各其宜アリテナリサレバ其ノ
合ニハ道學ヲヤクテ技藝ヲセヨト聖賢ツク言宣フ事ナリ。況
前以テ專ラ技藝ヲ學シテオノオノ之ヲ計テセヨト云フハナリサレバ
或者ノ様ニ只技藝ヲ學シテ家ヲ爲サシト云フコトナリサレバ
ノ說ガ遂ニ道學ニ背ケテ技藝ニ向キ義ヲ去テ利ニ就ク者ト曰實
ノ說ガ遂ニ道學ニ背ケテ技藝ニ向キ義ヲ去テ利ニ就ク者ト曰實

カヲ以テカ且クノ説ノ如クハラズハ道學ハ貧乏者ニ對シテ
様ニナル可ク笑シテ顔子以來賢人君子ニ貧乏者ハ多クテ之
トモツクニ技藝者ハナクテ以テ學者ハ凡人ニ對シテ聖賢ヲ
學ブ者トシテ貧乏者トシテ道學ヲセヨト云フ。然レバ其ノ何
ノ角ト云フ技藝ヲセヨト云フハ余ク聖賢ヲ學ブト云フ眞實ノ思入
ナクテ以テ聖賢ヲ學ブノ思入ノカクテ之ヲ以テ之ヲ何ノ角ト云フ
及バ又ト聖賢ヲ學ブト云フハ此言多クハ正活眼ヲ開キテ見
分ケ難クカクテ以テ爲貧ト云フコト付テ公先輩ノ論ニ以テ之ヲ其
ニテ殊ニ天本先生ノ爲貧說ト云書テリテ仔細ニ此ヲ論テ之ヲ貧
ニ處スル者ト先ニ此書ヲ讀テ考ルガ事ト自ラ合點スル處カクテ
カク先輩用意如此周到ナルヲ以テ之ヲ知ラズニ唯技藝ノ一路有
リト云フ思フヲ俗ニ合セ世ニ同ク之ヲ道學ト背馳スルハ實ニ憫
ヲ給フ事ナリ。然レバ其ノ爲貧ノ法ニ對シテ之ヲ論テ之ヲ其
凡ソ世ノ疑惑ヲ抱キテ紛紜スルコト之ヲ要スル者皆道學ト道學ト

實ヲ知ラズ學藝本末ヲ分ニ暗ク徒ニ世俗ヲ習尚ヲ見奉我性分之
所固有職分之所當爲ヲ願ミズ義理ノ辨ニ於テ臆然タルヲ以テ徒ニ
私意妄慮ニ驅將去ラレテ然ルノミ抑道學天下ヲ明カナラズ明師先
輩ノ提撕誘掖スル者其人ニ乏シ然レバ後生小子ノ賢々焉岐ニ迷フ
亦宜ナリ然リト雖是皆凡民ノ事ノミ士斯世ニ生レ凡民ヲ以テ自ラ
處ルコト豈有志者ノ能ク爲スニ忍ブ所ナラシヤ須ク一躍シテ以テ凡
中ヲ躍出シ踵ヲ豪傑ノ士ニ接スルヲ要ス夫レナリ人果シテ信ニ其
志ヲ立テ得ベ時道學明ナラズト雖古聖賢ノ遺經儼トシテ全ク存シ
テ缺ル所ナク世明師先輩遇難シト云ト雖天下ノ廣キ豈全然斯學ヲ
講ズル者無ラシヤ學者其志サハ確ナラズ豈其學ノ成ラザルヲ憂ヘ
シヤ故ニ實心ニ斯學ニ從事シテ己マザレバ所謂藝本學末ヲ分義理
ノ辨ニ於テ見得ル所アリ性分之所固有職分之所當爲ヲ知リ世俗習
尚ノ見ニ溺レズ斯學ニ於テ必ク得ル所アルニ然ルニ世ノ讀書者
先ヅ其志ヲ確立スル能ハズ空々ニシテ讀ミ漢々トシテ過ギ何ノ見

得ル所ナク遂ニ學藝本末ヲ分ニ於テ茫然トシ知ラズ混着シテ擇
ブ所ナク其凡庸ノ鄙見ヲ以テ妄ニ疑惑ヲ生シ無頭無尾ノ俗說ヲ爲
シ義ノ何物スルヲ知ラズ唯利ニ徇ヒ我ヨリ求メテ荆棘中ニ迷入
リテ復出ル所ヲ知ラズ悲夫嗚呼人自ラ斯學ヲ力メテ自ラ其學ヲ起
ラザル知ラズナク漫ニ疑ヲ生シ紛紜ヲ説キ爲シテ自ラ其罪ノ大ナ
ルヲ知ラズ亦何ゾ自ラ其量ヲ知ラザルヲ甚キ程子曰學者先要會
疑下蓋疑フテ後ニ得ル所辨ニ疑ヲ會スルハ學ニ進ム所以ナリ余嘗
テ云疑ハ疑然ズシテ疑ヘト是疑ヲ開ク所以ナリ然ルニ知ラザルモ
ノハ先ニ私意ヲ以テ疑ヲ生シ之ヲ開ク所以ヲ求メズ一向ニ疑フテ
信ズル所ナシ故ニ其疑フ程益迷惑ヲ竟キ一生ヲ誤ルニ至ル人何
ゾ自ラ猛省セザルヤ

以上述ル所別シテ悟リ難キ事有テ非ズ學ニ志スル者ノモ
ヨリ知ル所ナリサレバ今此ニ論ズルノ用ナキニ似タリ知ル者
リ之ヲ見セバ必ズシモ言ハズカ可ナク云然者近者或ハ

ノ疑ヲ抱ク者アルヲ覺言余恐ル世往々如此之疑ヲ抱テ空ク岐
路ニ彷徨迷惑シテ聖賢之道ニ入ルコトヲ得ズシテ遂ニ一生ヲ誤リ
枯落窮慮之歎ヲ免ルガ難キ是豈忽諸ニ付ヌ可シキ是ニ於テカ聊
鄙見ヲ列記スルコト此ノ如シ是豈已ムヲ得テ已マザル者ナランヤ
言すともありなむものをいは橋の言すは人の踏やたかへむ
遂ニ題シテ岩橋ト云フ
急迫 悠々
學談中所載尙齋先生雜談錄中今令ノ學者マツ急迫ナリ寧ロヨシ悠
々デア得ラレヌコトナリ其見ヘズリ此一語實ニ後世學者ノ弊害ヲ見
拔カレテノ言ニテ吾輩後生ニハ別シテ親切的當セル好警戒ナリ元
來急迫トイヘバ早ヤ病ナリサレドモヨレハモトガ本氣ナ所カ又出
ル病ナリ急迫ニナル程ノ本氣ガアレバマダノ學者ノ脈ガアル脈ガ
アルカラマダノ藥ガ是ラレルゾヤガテ得ラレル然賴ミガアル急迫
ニ終レテハナイゾシニ引カヘ悠々デアハ毎ニ明日マツ思フ心ニ

今日ハマアトブラツイテ其日送りニ過シテ程子ノ學如不及。猶恐
失之。不得放過。纔說姑待明日。便不可也ト仰ラレタコトハ頼ト知ラ
ズ本氣ト云者ガ更ニナイソレデアハモフ本心ガ生キテ居ラヌ絶脈ナ
リ已ニ脈ガ絶ヘテハモフ藥ノモリ様ガナイ糠ニ釘ナリ朽木不可雕
也。糞土之牆不可朽也。テ雖聖人與居。不能化而入也。ソコデア急迫モ悠
々モ皆病デアハアレド學者ハマツ急迫ナガ寧ロヨシ悠々デアハ得ラレ
ヌコトアルゾ寧ト云ガ着目處ナリ讀者草々ニ看過スルコト勿レ錯會
スル勿レ
實事
同上雜談錄曰順利曰サテ實事ト云モアシク心得テ事ニアラサネ
ハ實事ヲナキ様ニ思フカラ奉公シタクナルデシト心ニ覺ヘノアル
ガ直ニ實事ナリ先生曰然リ實事々々ト云コトハ人ノ多ク言ヒタガ
コナリサレド實學以下地モナシニ飛出ス故ソノ實事ト思フガ却テ
實事ニナラヌ古者學而後入政未聞以政學者也ソコヲ輕々シク

實事々々ト云テ飛出ス。賊夫人之子ゾ仕ルバカリデハナイ出テ事
ニ就クハ皆是ナリ抑人窮達有命其事一ナラズ然レドモ其身ノ所居
ニ隨フテ皆實事アリ今夫レ天下ヲ治ルモ一縣一郡一市一村ヲ治ル
モ皆實事ナリ已レテ修ルモ人ヲ教ルモ皆實事ナリサレバ窮シテ草
廬ノ中ニ在ルモ亦家ヲ齊フノ實事アリ已ニ此身アレバ亦修己ノ實
事アリ適ク所到ル處是亦爲政奚其爲爲政ゾサレバ人々其居ル所ニ
隨フテ實事アラザルナシ各其位ニ居リ其實學ヲ以テ其實事ヲ行フ
是レ眞ノ實事ナリ然ルヲ何ゾ其實學ヲカメズシテムセウニ飛出シ
テ實事々々ト云ヤ凡ソ大事ニアレ小事ニアレ事ニ當ル者其實學ノ
力ナクンバ何ヲ以テ其實事ヲ了スルヲ得ンヤサレバ其實事々々ト
云ガツマリ空談虛事ニ落ツルツサレバ實學ノ力ガタシカニナフテ
ハ與ニ實事ヲ語ルニ足ラヌツマリ其實力ノ慥ナ所ガ學者ノ實事ニ
テ事ニアラハスヲ待テ後ニ始メテ實事ト云テハナイソコデデシト
心ニ覺ヘンアルガ直ニ實事ニテ天下ノ事皆此ニ本ヅクゾ出テ、事

ニ從ハネバ實事デナイト思フハ本ヲ知ラヌ者ゾ徒ラニ輕々シク飛
出スコ勿レ心ニデシト覺ヘノアル程ニ實學實力ヲ有スルガ學者ノ
大事ナリデシト心ニ覺ヘノアルガ直ニ實事ト合點スレバ自ラ力ヲ
内ヘ用ルガ事ニアラワサネバ實事デナイト思フカラツイ外ハ馳ル
ゾ

偶記四條

閑ヲ見付ケテ讀書セワト云ハホンソ學者ニ非ズ志有ル者ハ許多ノ
冗雜ヲ排除シテ學ニ從事スルゾ人モシ閑隙ノ來ルヲ待タバ終身得
可ラズ只我ヨリ切込テ勇往直前スベキノミ
自信而不疑ハ學者學ヲ成スノ骨ナリコレガサフテハ決シテ終始一
意デヤリヌクコガナラヌ所ガソシ不當信底ヲ了見違シテ信シテ居
ル者ガアルコレハ自信トハ云レヌ妄信ト云者ニテ學ヲ成ス能ハザ
ルノ基ナリ是必竟格致ノ工夫ガナイカラノ間違ナリ學者自信無ル
可ラズ妄信アル可ラザルナリ

心存スレバ我が主ニナリテ我心ヨリ事物ニ應接スル故物ニツラレ
テ妄ニ喜怒哀樂スルコトナシ凡ソ喜怒哀樂ノ不正ハ皆心存主セズシ
テ物ニツラレテ動ク故ノコナリ
偽ハ元無イコト拵ヘルノデイカフ骨ノ折レタコトナリ又ソレガ露レヌ
様ニトスルデイカフ心苦シイコトナリ入ヲヌコニヨケイナ苦勞ヲ自
ラ求メテ馬鹿ナコトナスルゾ作偽心勞日拙ゾ然ニ却テワレトソレテ
餘程智ノアル積リナリサレド心ノ底ニソノ悪ルイト云コトハ知テ居
ルユヘ安カラヌナリサレバ偽ヲシテ智ト思フガ智デハナクテソレ
ヲ悪ルイト知ルガ智ナリ然ニソコヲ自ラ能ク知リ分ル者ガナイ故
ニ徒ニ私智ヲ事トシテ本智ガ益々クヲム不智ノ甚キゾ

溫知餘筆附錄 六

勢海一滴 六

前篇ニ記シタルガ如ク我先考ガ諸先輩ニ見ヘテ聞玉ヘツル説
話ノ筆記叩端錄ハ今存セズ唯碧海先生ニ聞玉ヒシコトノ筆記ハ
隨筆狹むじろノ中ニ存シタレバ今此ニ抄録スルコト左ノ如シ原書

ハ平假名ナリ

狹むじろ上 乙酉八〇年文政ノ年余昌平ニ在ル折節阿波藩儒柴野碧海

祇役シテ藩邸ニ在リシガ師蒙齋夫子ト交リ厚シヨテ親炙シテ

教ヲ受ヨ發明スル所有ナント宣ヒシニヨリ小野民表宮内君熙

清之進ト云ト俱ニ讀書作文ノ法ヲ質問セシヲ遺忘ニ備ヘント

テ螢雪ノ暇ニカクハモノシ侍リヌ

一拙齋西山先生名ヲ正字ヲ子雅ト云人ト爲リ嚴毅云フ計リナク門
人ヲ導ク峻勵ニシテ少シモ假借セズ學ブ所ハ濂洛ヲ宗トシ粹然
タル當世ノ眞儒ナリ凡ソ我道ニ趣異ナル徒ヲ見ル恰モ讎敵ノ如

クナリシ

一西依成齋崎門ノ徒ニテ所謂綱齋派ナリ經學ノ餘詩文ヲヨクシテ跡モスグレタリ崎門ノ中ニ未ダカ、ル儒者ヲ見ズ精里先生業ヲ門ニ受ケ玉ヘリ

○因ニ記ス蒙齋先生ノ記行有方錄ニ謁西依成齋。年方九十五。猶嬰鑠。喜對人談古今得失。又健談。一食或盡鷄鴨一匹。梁上橫眉尖刀重數十斤者。每日。萬一有事。我欲擁此刀以護衛。禁闈。雖萬夫必辟易不進。氣概老猶壯。學承山崎闇齋統。筆法古蒼。爲予作一紙。見ヘタリ寛政八年。因テ憶フ機少時先考ニ侍シテ京都ノ公邸ニ在リシ時一日隨テ雨森白水翁ヲ烏丸四條下ル町ニ訪ントセシ路次四條ノ街上ニ於テ烈士暮年壯心不止ト云古樂府ノ二句ヲ一行ニ書シ九十四翁西依周行書トアルヲ得タリシカバヤガテ携ヘ行キ翁ニ見セタルニ翁ハ元來鑒定ヲ善クスル人ニテ一見シテ是コソ先生ノ眞蹟ナレト云レシ因テ語リテ曰小濱侯先生ヲ崇

ビ禮セラレシガ或時候ノ章服ヲ贈ラレシニ先生悦バズシテ侯ノ我ヲ禮待シ玉フハ聖賢ノ道ヲ尊ビ玉フナリナルニ己レノ章服ヲ賜フコトハ有マシキコトナリトテ辭シテ受ケ玉ハザリシガ改メテ先生ノ章服ヲツクリテ贈リ玉ヒントゾツレバ今ニ至リテモ西依家ヘ賜ハル服ハ必ズ西依家ノ紋ヲツケラル、下ナリ云々先生ハ終身仕ヘ玉ハズ嗣墨山翁ニ至リテ小濱侯ヘ仕ヘテレシナリ先生ハ蒙齋先生ノ謁シ玉ヒシ翌年寛政九年九十六歳ニテ没シ玉ヘリ

一中井竹山學純粹ナラズ其弟履軒學術尤モ正シカラズ人品ハ頗ル高ケンヤモ性極メテ蠱暴ナリ晚節ニ至リ益々甚シ精里先生對州ヨリノ歸路大坂ヲ過ギテ履軒ヲ訪玉ヒシニ何事ヲカ論シ玉ヒケン出デ、門人ニ告ラレケルハ學問ハ容易ニナルベキモノニハアラシ中井翁トテモ聖人ノ道ヲ學バント志ガセシナレ然ニ今此ハ如シ汝等モヨク心シテ學ベト宣ヒケルトゾ

一中井兄弟世舉リテ其文辭ヲモテハヤセリサレド弟ノ通語ヲ見ル
ニコハタニ草稿ヲ平生ノ文章名付ケテ弊帚ト云々其文辭ハ
巧拙ハシバラク之ヲ置テ云フ所ノ偏僻ト驚クバガリナリ余嘗
テ之ヲ讀シテ偏僻ナル論ニ至リテ痛ク之ヲ辨駁シ又近比江戸ニ
來リ石田半兵衛ガ家ニ藏セシ弊帚ヲ見ルニサキニ見ル所ノ文
ヤ、異同アリ官暇又論辨ヲ書キ加ヘテ歸シ又竹山ノ逸史ハ通語
弊帚ナドニハ遙ニ立踰テ議論文章トモニスグレ侍リヌ

○因ニ記ス機嘗テ之ヲ先考ニ聞ク先考松崎儼堂ヲ見玉ヘシ時
談逸史ニ及ビシニ儼堂之ヲ評シテ逸史ハ左傳骨ニシテウケ
テ張タル者ニテ裏カラスカシテ見ルト左傳骨ガ皆見ヘルト云
テ笑ヒシトゾ

一近比石田半兵衛ニ請フテ東涯ノ集ヲ讀ムニ文辭スグレタル者多
ク見ユ惜ム所ハ瓦礫金玉合セ載セリ頗ル厭フベク覺ヘヌ經テ說
クニ至リテハ家學ノ說ヲ主張シヌレバ吾輩取ル所ガシ

一鳩巢ノ文ハ八家ヲ學ベル者ナリ東涯ノ文ハ儒者ノ文トモ云ベク
一川口靜齋業ヲ鳩巢ノ門ニ受ケタリ平生ノ詩文名ヅクテ學山集ト
云薩摩ノ儒某コレガ門人ニテ遺文ヲ校シテ上木セントセシガ如
何ナリシヤ後ニ栗山先生文集ヲ見シニ葦山集序ト云アリ序中
門人山田用晦山本子和遺文ヲ校シテ梓ニスト見ヘタリ

一服部栗齋寬政ノ始學問所ヲ糎町善國寺谷ニ賜フ信古書院ト云
一天明寬政ノ間貴藩ノ老公將軍家ノ御輔佐トシテ始メニ學政ニ新
シ玉ヒ岡田寒泉及ビ我栗山府君ヲ登庸シテ教育ノ事ヲ掌チシム
幾程ナク約山先生ヲ召シ寒泉先生御代官ト爲リ玉フテハ又精里
先生ヲ召シテ御儒者トナシ天下ニ令シテ程朱ノ學ニ非ルヤカラ
皆之ヲ禁ゼシメ玉フ此時備中ニ西山拙齋翁アリ安藝ニ賴春水兄
弟アリ肥後ニ藪孤山アリ皆純粹ノ朱學ナリ本朝昔ヨリ學ノ盛ナ
ル此時ニ及ブナシトコソ思ヒ侍レ

一 仁齋徂徠學術ノ淺陋ハモトヨリトカフ論ズルニ及バザルナリ鄙
 シキ諺ニ夜郎自大ト云ダグロニテイト笑フニ堪タリ
 一 藪孤山學術正シ父ヲ震庵ト云孤山ノ學問後學ノ崇尙スル所肥後
 イカニシテカ、ル大儒ヲ出セル
 一 栗山府君嘗テ宣ヒシハ文ヲ作ルノ方ハ先ツ一篇ノ文ヲ作り得バ
 打返シ操返シ思テコラシアマタ、ビ書キ改メ已ガ力ヲキハメツ
 クシ扱始テ師友ニ示シ其論說ヲキ、又之ヲ改メカクシツ、稿ヲ
 カフル凡ソ十タビニモ及ブベシ此法ニ從ヒ二十篇ノ文ヲカキテ
 フセナバ始メテ文章トナルベシカク力ヲ用非ヌレバ始ニカキツ
 ル文字一字モナキ様ニナルナリ余此教ニ從ヒ力ヲ盡シ思テ苦シ
 メヌルニ頭髮モユレガ爲ニ脱シ又ハ病ヲ生ズルニ至リヌサレド
 カクマデ力ヲ盡シ思テ苦シメネハ文章ヲシキ文ハ出來ヌナリ
 嗚嘗テ人ノ語ルヲ聞クニ先生壯歲文章ニ心ヲ用非血ヲ吐クニ
 至ルト聞キヌ今頭髮ユレガ爲ニ脱シヌルノ語ヲマノアタリ聞

クニ人言ノ妄ナラザルヲ知リヌ
 一 賴山陽未ダ其人ヲ知ラズ近比作ル所ノ詩文ヲ寄セ來リヌ余モ文
 稿ヲ示シヌルガ批評ナドシテ返シヌ筆札イト見事ニテ有リシ
 嗚民表君熙ト俱ニ先生ノ文稿借ラントテ乞フ先生イト易キト
 ナレドモ先比ヨリ菊池五山ノ見セヨト云ニマカセ遣ハシ置ヌ
 五山ハ何ノ用モアルマシケレバヌグサマ已レガ口上モテ五山
 ノ許ヨリ取戻シテ見玉ヘトアリシカバソノ如クシテ持歸リテ
 寫シ置ヌ枕上集ト云一本ナリ
 一 越智文平尾藤ノ門ニテハ文辭ノ聞ヘアリ經義ノ方ハ左ノミ長ゼ
 シトモ覺ヘズサレド今ハ嚴然タル大儒ナリ尾藤ノ門ニテ經義ノ
 得手ハ高橋勇太ニコソ
 一 篠崎小竹學術正シ兼テ詩文ヲモヨクセリ我藩大夫稻田氏年ゴト
 ニ德島ニ招キ其講書ヲ聞ケリ故ニヨテ其人ヲ知レリ
 一 史ニ載スル所ノ五行俱下。過自成章。瀉千里。文不加點。トイヘル其

人マコトニ恐ルベク覺ヘヌサレド古ヨリ未ダカ、ル人ノ大儒名
家ト稱セラレ其學其文後世ノ模範ト爲リシ人アリシヲ聞カズ書
ヲ讀ミ文ヲ作ルハタゞ深ク思慮ヲヨラシ心力ヲ盡スヲコソタフ
トムナレ五行俱下一瀉千里何ノ用ナカ爲スベキ
一余文ヲ作ル長短ヲ限ラズ容易ニ筆ヲ執リテ稿ヲ立ルト云フハナ
シイツモ腹稿ニテ數々稿ヲカヘ十日餘リモ過ギヤ、己ガ心ニカ
クテハ然ルベカラント思フヲ待テ始メテ筆執リテ稿ヲ立テヌカ
クシテ稿ヲカフル再ビニ過ギズ若シ始ヨリ筆執リテカキヌレバ
一句ヲツラヌレバ一句カヘガタキ様ニ覺ヘ一章ヲツレバ一章
ヲ改メ難キヲ覺ユ詩ヲ作ルモ亦同シ余幼クシテ菊池五山ト友タ
リ五山詩ヲ作ルニ始ヨリ小サキ紙ニ筆モテ書キ付ケ後ニハ黒ク
汗レテ書クベキ所モナキニ至ル余心ニ左スマシキヲヨト思ヒツ
、カクハ仕ナレヌルニコソアレドツマル所タゞ仕癖ト云マデニ
テカクスレバ何ト云程ノトハナキナリ

一己ガ文ヲ見ルト人ノ文ヲ見ルト心得均シカラズ己ガ自ラ作レル
文ハ未ダ心ニカナハザレバ飽クマデ之ヲ改メ己ガ心ニカナフヲ
期トスベシ人ノ文ヲ見ルハ左ハスマシキナリ人或ハ他人ノ文ヲ
モ己ガ文ヲ直ス様ニ力ヲキハメテ直ス者アリテヨキトハヨキナ
レド我見ル所ヲモテ云ヘバヨシトモ思ハレズ其故ハ他人ノ文ヲ
見テコ、ハ前後ト都合セズ脈理モ通ゼズトテ一段ノ文章ヲ直セ
バソレガ爲ニ其文ハヨキ文トナレドモト其人ノ書キシニハアラ
ズ抑先輩ニ就テ雌黃ヲ乞フニハ一字一句ノ間ヲ彼レ是レト正ス
ニハアラズカクテハ立意イカニヤ譬喩幹旋イカニヤ首尾結構差
支ヘハナキヤトカク大ナル所ヲ正シテ直シテ受ル者ナリ一字一
句他人ノ手ヲ假リテ文章ノナルモノニハアラズサレド我栗山府
君ハ他人ノ文ヲ見玉フニ多クハ點カケテ消シ或ハ別ニ書キカヘ
テ遣ハサレヌ皆ソノシクセニテ余ガ如キハサフハセヌナリ 鳴
ノ作ル所ノ文二三篇ヲ携ヘ雌黃ヲ乞フニヨテカクハ宣ヒシ

溫知餘筆卷之九

明治三十四年十二月十五日印刷

明治三十四年十二月廿三日發行

非賣品

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字矢田嶺六十三番屋敷

編纂兼 石山七郎
發行人

三重縣伊勢國桑名郡益生村大字矢田九十六番屋敷

全 辻市治郎

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字新地拾四番屋敷

全 入澤源藏

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字三崎通八十七番屋敷

印刷人 松尾民治郎

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字三崎通八十七番屋敷

印刷所 清光舎活版所

溫知錄

卷之十

明倫彙編

家範典

婦人

溫知錄

卷之十

婦人

溫知錄

卷之十

婦人



溫知餘筆卷之十

學談 十

強齋先生雜話抄

若林強齋先生ハ京都ノ人ニシテ淺見綱齋先生ノ門人ナリコノ雜話ハ其門人若狹ノ山口春水翁筆記チルヲ此ニ抄録セル者ナリ

巳亥^{四年}二月二十二日見先生座隅ニ素履往无咎ト云掛物アリ

ヨツテ曰此掛物ヲモヲヒ候文字甚ダ宜シク別シテ悦ビ候由ナリ曰素履トハイカナルコトニテ候ヤ

先生曰右ハ易ノ履ノ卦ノ字ニテ候素ハ平生ダズイノコトニテ候平生素ヨリ履行ソナラバタトヒ變異ニ遇フトモ何ノ咎カアラント云コトニテ候無咎ノ效ヲ得ルコトハカタク可有之候ヘドモコノ素履ナクテハ何ノ用ニ不立コトニテ候故ニ素履ノ二字ハ生涯ノ守リニ可致旨先ヘモ謝シ遣ハシ候

曰其元歸期モ次第ニ逼リ申候ユヘ簡様ノコトハナシ置候也

一ニハ書會ガヨキコトニテ候輪講ニナリトモ又其元引ツケテ講スル様ニナリトモシテ是ヲダヤサスガ何ヨリノユトニテ候扱間暇ニハ書ヲハナサヌガヨク候書ヲハナレルト意ヲヌト思フテモイツノ間ヤラ物ハナレガスルモノニテ候サテ自分ノ好イタ様ナ料見ガ出テ笑カシイモノニナリ申候書ノ讀ミ様ノ次第ハ四書小學近思錄ハ且夕食ヲ喰フト同シユトニテ候ツノ餘ニハ五經ハ及ブモ人々ノ力量次第ノコトニテ候史類モ讀マデ叶ハヌコトナガラ綱目ガ讀史ノ骨子ニテ候ユヘ是ヲヨク讀メバ他ノ史ニウタラセザモ先ツヨク候扱ソノ餘ニハ四子ノ書ニ熟スルガヨク候ヘドモ是ハ大略近思錄ニ載リアルガ精粹ニテ候見所モナクテ四子ノ書見レバ必ズ惑ヒヤスク候四子ノ學ヲ集メテ大成ヲサレタハ朱子ニテ候ヘバ只々明テモ暮テモ朱子ノ書ニナヤムガヨク候サテ論語ヲ讀ムニハ序説カラ見テ益ニ立ヌト同シコトデ朱子ノ書ヲ讀ムニハ朱子ノ爲人ヲ知ラデ叶ハヌコトニテ候間歸國以後講釋ナリトモシテ朱子行狀ノハヤ

ル様ニモラレタガヨク候即今梓行ニ有之候サテ行狀如形スミニクイ者ニテ候是亦間目ニテ每字ニ尋ラルル候左候ハハハツツ書ガ出來可申候サテ朱子文集ヨリ改メテ家申候重テ校合モセラルル候ハハ便ニ遣ハスベク候其餘讀ミ申サレ可然書道々下ニ可申候折々參會申候ハハ互ニ益モ可有之ニ隔居遺恨ニ候
丑三月十日 曰私義モ年來ヨイカワルイカ讀書モ仕リ殊ニ先年教誨ヲ蒙リ候以後ハ何トシト存候ハハハハハハ形ノ付タルコトモ無之此間ツクツト存候今迄ノ學問ノ致シ方デハ形タノ付ヌ筈デヤト存候ハハハハハハ書ノ上デモ談論ス時ハ父母三年ノ喪ノコトヲ云ヘバ知レタコト父母三年ノ喪ハ聖人之教訓云ヒ人情ノ實ト云ヒドフモ息マレヌコトデヤトナルホドサリ思フテ左様ニモ申セドモ退テ自己ノ欲スル處ヲ觀ルハ申々三年ノ喪ヲツトム程ノ實心無之候スベテノコトカ是ヲ書キ讀ミ義理ヲ講ズル處次第ニヨイ様ニナリ候ヘドモイツ迄モ自己ノ功

夫ニナリ不申候コトイッ迄モ埒ノ明ヌ筈ナリ存候
曰學者泛然トシテ書ヲ看過シ自反ノ功夫少キハ古今ノ通病ニテ候
ソコヲ省察有之ハ至極ノコトニテ候然ル上ハ氣ノ付カヌツテハ
是非ナケレ氣ガ付テカラハサツナイ様ニトツテカヘサルベキコト
ニテ候ニ今ノ其元ノ語意ハ將來モ亦如此上達ナク尤モ尤モ以往
ニ付ケスマサル、様ニ相聞ヘ候サツシタコトハ甚ダ拙者望ヲ失
ヒ候

曰ナル程仰ラレ候通リノコトニテ其段モ料見仕リ罷在候ヘド
モ出ルマ、ニ申上一ツモ其言ヲ踐不申候ユヘ妄リニキカダテ
ニモ不被申上實ニ存ズル趣ヲ申上候但シ此段ヲ申上候ハ將來
ヲ敬ミタキ存念ユヘノコトニテ候此上ハ幾重ニモ御教誨ヲ蒙
リタク存候書ヲ見ルコトヤ事ニ處置スルコトハ年々ハカ稍々
前ヨリハヨイカト存ズルコトモ有之候ヘドモダタイノ根情ガ
ドウモスマヌモノニテ候

曰イカキモサツアルベキコトニテ候カチテモ申ヌ様ニ存養ノ筋ハ
ソロソロトナルモノデ言語モ行事モシホラシクハナルモノニテ候
ヘドモソレハナニホシ見事ヲモダタイニドモガ有リテハイツ迄モ
君子ノ膚ヲ得ラレヌコトニテ候ドウシテモウツキリトシタ者ニナ
ライデハ天ノ照鑑ニ愧ヌ人ニナツテ死スルコトハナラヌコトニテ
候ソレウツキリトナイハ品々アルコトナレドモツツテ云ヘハ色カ
利カ名カ此三ツヨリ外ニハナイモノニテ候飲食男女平生服御ノモ
ノデサテコレホド節制シガタイ者ハ無之候古聖賢ミナ這裏ヨリ工
夫ヲ爲シ出シ來ルトアレバコ、ガ大切ナコトニテ候ガ先日良シ
字ノ旨ヲ面白ク思ハル、別號ニ付ケタイトアルコトデ存養ノ筋ハ
目當ガヨク聞ヘ候然レドモ只存養バカクテ彼克己ノ工夫ガ無レバ
ドウシテモウツキリト無之モノニテ候ソノウツキリトナイハ大源
名利カ色欲ダサテ面々ニ別シテ病ノ甚シイ處ガアルモノニテ候會
子ノ三省モアレ三ツテ萬事ガスムデハサツ右ノ三ツガ會子ノ心カ

ヲ省ラル、所ニ不足ガアルニツイテ箇様ニ功夫ヲセラレタモリナ
リスベテ古人ノ功夫ノ爲方ガミテ我病氣ノ甚シキ所ヲ取テヒシガ
コトデ一ツ取テヒシゴトガナレバソレダケソ力量ガ出來テソレ
ダケノ學ノス、ミニナルコトニテ候此病氣ヲ打ヒシゴトヲ得セ
ズニ義理モ行ヒ乍ラ我欲ソ方ヘモサハラヌ様ニト云様ホサマヌル
不工夫デハ中々イコトニテ無之候謝上蔡ガ珍シイ視ヲ得ラヒタ
ト此ヲ愛スル心ガ發ツテ邪魔ニナツダレバソノ視ヲ微塵ニ打碎カ
レタト云コトモアリ又物ヲ善ク書タイ欲ガ有リタレバ一管六文ソ
筆デ書イタト云コトモアリ此等ハ甚ダシイサカシイ様チコトナレ
ドモ大抵デハ根拔ケガチラヌユスニテ候トシト踏込シテ二念ヲツ
カヌ様ニモチバイナユトニテ候自分モ嘗テ書物ノヨゴレルコト
ガ風トイヤヒナツテ混タテ撫摩スル様ニナリウツケタコトザヤト
存シテモ又發コリシテ下カク心ニ息マレヌ候其頃或人ソ咄ニキ
クダシト云法師ハ新ラシキ書ヲバ先初カラクルクルト卷イテ表紙

ヲモミイタメテ如此シテ見ルデビシビントセイゾイト申シテ新
シイ書ヲ見ルニハ必ズサウスルト云コトヲ聞キユレハヨイコトト
存シテソレカラ書サトルト無理ニクルクルト卷イテ見候ヘバ彼書
物ノヨゴレルサイヤニ思フ心ガノキ申候下ウシテモ甚ダシイ程ニ
イカチバ克己ノ工夫ハ形タメツカヌモノニテ候禪學ガ隨分道理モ
ワルシ工夫モワルケレドモトカクコト、力ヲ用井テユ、ノ詮議ガ
精シイユヘニドウシテモ位ガ高ク候アノ様ナユトニテ合點可有之
候其元ニモ兎角自己ノ病根ヲホシテソレヲ取テモヌル功夫ヲナサ
レ可然候

曰病氣ヲ申セバ持タヌ病氣モ無之候其内尤病氣ノ治シガタキ
有之候多言ニテ御座候タマタマニハ心付キ嗜ナシテ見申候ヘ
ドモ腐ツタ繩デ奔馬ヲ牽イタ様ニテ心ガ付イテオル内ハ左モ
ナイ様ニ候ヘドモソノ手ノ下ヨリヌケ申候ソレカラ支レタリ
誕リタリヌルコト覺ヘヌ中ニイタラモ可有之存候ソレヲヘ言

微ヲ讀ムハ顔ガ赤フナル様ニ存候サテ其多言ナリ候處ニ
ハイヤナ味ガ御座候私生レ付氣ガ盛ニ御座候ユヘシトシト
ト心ニユタエテ言願行下云様ニ申シガタク滑稽ナド申ス様ニ
ラ只狂言奇語ガ申シタク候コレモ心ガサワツイテ居テサツテ
リトスワラヌ故ト存候サレドモコレ等ハ存養ノ足ラヌ筋ニテ
心ノ内ニハ慚カンイユトハ無御座候ガ人ニ向フト説キタフナ
ル根本ハ爲己ノ合點ヲナク向外氣象ガヲト存候トカク向フツ
ツテ自己ノ反求無之處ニテ畢竟ハ利發ガ人ニ見セタイ味カラ
ト存候是カラ心ノ守リガ拔ケ申候テ百事不善ニ至ル様ニ存候
日ナルホド聞ヘ申候ソレハカイ取テ云ヘバ矜ルト云ヨトニテ候ソ
レハ甚ダ治シ難イ病氣ニテ候云ヘバ右ノ筋カラ出ルコトニテ候
日如仰私モ左様ト存シ候利欲モツヨク候ヘドモ是ハ自己ニ恥
カシイト云息マレヌ者ガ御座候ユヘ制シ易イ様ニ覺ヘ候色欲
最サカンニ御座候ヘドモ是ハ心ハトモアレ形ナド蹈違ヘヌコ

トハ亦ナリヤスイヨトニテ候具名ヲ好ハ心ガ向フツリニナリ
外ヅリニナリイツト定メズ言語上ヨリ崩レ申候處ドフモ取り
留メガタク候此間同役ト閑話ノ序私申候ハ先年在京ノ時ノコ
トヲ存ズレバ若氣ノ多イコト意思氣象ノワルカリシコト兎角
申シガタク思出シテモ汗ノ出ル様ニ存シ候但箇様ニ申セバ具
今ハヨイ様ニ候ヘドモ依舊小人ニテ候御奉公ト云ヒ足下先年
ノ芳情ト云ヒ此度ハ何トゾ其元ノ助ケニモナリ不足處ヲ補ヒ
申度所存ニテ候ヘドモダタイノイガミ直リ可申トモ不存候申
迄ハ無之候ヘドモ無心置異見ヲ加ヘ給ハリ候様ニト申候ヘバ
同役申候ハソコニ遠慮聊カ無之候舊交ト云ヒコレニ互ニ善テ
責ルガ交ルノ道デオキモ直サズ御奉公ニテ候ヘバ互ニ心底ヲ
盡シ可申談候サテ無遠慮申サバ其元ハ多藝ト云ヒ學力ト云ヒ
決斷ノ才ト云ヒ此元ナド被相勤候ニハ餘リアル器量ト存候ガ
一ツノ疵ニハ氣象ノツヨイカラ活略ニ過ル處ガ相見ヘ候又

學力有テ多藝ナ處カラ遜讓ノ氣象スクナク矜ル氣味ガ相見ヘ
申候此兩事ガ少シ工夫ガ足ラヌ様ニ存候旨申候且暮參會仕ル
同僚ノ申様モ先生ノ察セラル、如クニテ候ココハ如何功夫ヲ
可仕候ヤ

曰同僚ノ言ハ頂上ノ針ト存候其元ニ於テハ無比類過分ノ言ニテ候
能操守可有之候サテ津田氏サホドノ人トハ不存候ニヨクモ被申候
ト不堪感心候近頃、頼母シク候サテ其元ノ功夫ハ言ハ先キテトメ
テモトクト直リニヒコトニテ候ヘドモ言ニ慎ムナリガ直ニ内ヲ養
フノ工夫ニナリ申候ヘバ先ヅ言語上ニテ必至ト御慎ミ可有之候言
デソルイハ言フ上デトメルト云ガヌキサシノナイ端的ノ旨ニテ候
御用向ハ辯論シ盡サテバナラヌコトニテ候又其元ニテ講習有之ハ
是亦結構ナルユトニテ候是ニヒカヘルコトハ無之候手前ニテ拙者
トノ話ハモトヨリ義理ノ討論ニテ候此三ツヲ除キテハ云ハデ叶ハ
ヌコトノ外トント云ハヌト可被立候工夫ノ文字ハ寡黙ノ二字ニ落

着申候ユレテ座右ニ張付ケテナリトモ此二字ニ恥ヌ様ニ御心得可
有候前ニモ申ス通りトカク情欲ヲアシラウハナマヌルフテハイツ
マデモ根ガヌケヌ者ニテ候大勇力ニテ克去ラテバイカヌコトニテ
候大學ノ明德傳ニ克ノ字ノ出ダガユコニテ候ユコニ形ダガツカイ
デハ男兒トハ申サレズ候ヨク料見可有之候カクノ如ク志ヲ立テテ
克己シ去ライデハ何ノ益ニ立不申候義理ノ方モソムカヌ様ニ又情
欲モ行ハルル様ニ見合セ分別ニワタツテハヌツキト欲心ガ勝ヲ取
テキテイツデモ後手ニナリ申候大學デモ毎々申シタ通り天理人欲
君子小人ノ分ルル處ハユコニアルコトニテ候

曰先年罷上リ候以後上達コソナケレナリ下リ可申トハ不存候
處ヨクヨク心ノ暗ミ候ト相見ヘ右ノ様ナニブイコトヲ申上候
只今御教誨ヲ蒙リ酔ノ醒ル様ニ存シ候

曰珍重ニテ候近頃面白イ話ニテ候話ヲセバカクコソアリダキコト
ニテ候章句文字ノ吟味ニ筋ヲハツテ論シアヒ簡冊ニ日ヲヌヨスハ

眞ニ可惜コトニテ候

三月二十一日 曰ツクツク學術ノコトヲ存シ候ニトカク底入
ナク實ニ無之候ソレユヘ以往云タコト其時ハ尤ト思フテモソ
ノ意思氣象ガソデナシ其ナス時ハアツバレト思フテモアトカ
ラ見レバチカシイ様デドウモユガスマ不申候

曰ソレハ全ク存養ノカデナケレバイカヌコトニテ候ソコガ手ニ入
テクレバ學ハ大キナ上達ニテ候知ノロラクルモ上達デナイデハナ
ケレドモソコガ打ツイテシトヤカニ手ニ入テコイデハイツマデモ
我勝氣ニテ候大切ナイカヌ所ニテ候サアト云トギシギシスル様ニ
ナリギクギクスル様ニナリト云テユルメレバ全ク忘ルルニナリド
ウモ俄カニイカヌコトニテ候近思錄存養ニ

云々トア

ルガ其コトニテ候ヨクヨク功夫可有之候只々ソコガイケヌコトニ
テ候此度歸路湖水ヲ船ニテ渡リ申候ニ比良下風ニアテラレ横浪ニ
ナリ舟中へ波ヲ打込今モ覆ヘル様ニ危ウキコト度々ニテ候乗合ノ

ユトユヘ船中ニハ武士モアリ法師モアリ順禮モアリ町人モアリ様
々ニテ候處イヅレモ酔ツブレ武士モ吐逆ナスルヤラ首ノアガル者
一人モ無之法師ハ西瓜ノ様ニナリ居申候自分ハ幸ニイタムコトナ
ク折々細工ナドシテ居申候へハ風波ヤヤ治マリタ時彼法師ヤウヤ
ウニヨロボヒ出デテサテサテ驚キ入申候私モ腹ハ板ノ様ニナリ候
ヘドモコナタニ恥カシク今迄ヨラヘ居申候ト申スニツイテ此細工
モヤルセナサデ御座ルト云テ居申候ガ酔ハヌハヨシサテ酔ハヌニ
ツイテイナ慢ズル様ナ味が出テイカサマ平生ノ養ノ效カヤレト思
フ様ニナリ申候ユヘアブナイ心ザヤナトヨイト早ヤ此様ナ心ニナ
ルコレデハ何モ益ニ立ヌト獨リ恥カシク存候此處甚ダイキニクイ
處ニテ候

七月二十九日晚

先生曰此度在所ニテ小學内篇ヲ講シ終リ候聽衆ニハ武士モアリ百
姓モアリ色々ニテ候其内稽古篇ヲ讀ムニ至テ何レモ興起感發スル

コト甚ダニテ候在所ハキハメテ浮屠一向ノハヤル處ニテ候ガ急ニ
我ヲ折テサテサテ今迄ハダマサレテ居タト云ダグイ多ク候一向坊
主年來講習ヲ願申候得ドモ許サズ候ヘバ此度ハ堪カ子鄰家ヲタノ
ミ牆越シニ聽申シタル由ニ候在所ニテハ叔母ガ家ハセマク候ユヘ
別家ヲ一軒ウケ取りソコニテ講習相ツトメ候食物ヲ人ガ世話ニス
レバ心遣ヒ有之故召連レ候直次郎美濃ヨリ出迎候文藏ナドト共ニ
薪水ヲ取り申候日々明ケ六ツヨリ午時マデ講書致シ候其中ナニ朝
飲ノ間少シ休ミ申候マデニテ候講シ畢リテハ甚ダ草臥レ申候ユヘ
枕ニツイテサテ文藏ニ口授ニテ孟子浩然章記録ヲサセ申候コレガ
終リテ各々ノ幸ニテ候サテ小學ハ幾度カ讀ム書ニテ候處此度ホド
深切ニタツトク覺ヘタコト無之候眞ニ小學ガ活キ活キトシテ覺ヘ
候綱齋時分ヨリ出席申ス者モ有之候ガ此度ノ講習ノ如キコトツイ
ニキカヌコトヂヤト申候自分ニ覺ヘル處ト相叶ヒ候小學ハナンノ
コトナクカフスルモノアアスルモノト云マデデイササガ理窟ヲコ

チヌコトユヘナンノ理窟モ義理モ云ハヌナリニ無窮味ヲ覺ヘ候其
元ハイカガ被覺候ヤ

日中々御物語ノ萬分一ヲモ得可申トハ存ゼズ候但シ段々ノ御
教誨又ハ最前御示シ下サレ候筆記ニテ小學ノ書ノ體ガ合點參
リ候ユヘ前方ハツントユナン難イ書ノ様ニ存シ候處此度讀ミ
申候ニハ左ノミ難解コトモ無之様ニ覺ヘ候

日一段ノコトニテ候餘程ノ進ミニテ候サテコレニツイテ面白イ咄
ガ有之候先頃加州ヨリ御扶持下サレ候能大夫金春權兵衛ハ前々ヨ
リ手前ヘモ折々參リ候ガ此者ガ申スニハ私ノ家業モ聖樂ト聲音變
リハ無之候處何ニテ申サウニモ猿樂田樂ナド名カツキ口惜キ次第
ニテ候併タトヒ名ハ猿樂聖樂ト違ヒ唱歌ハ孝弟忠信ノ事ニ非ズシ
テ幽靈話デアラフトモ曲ハ文ノ舞武ノ舞トナガフテ修羅ノカツラ
ノト云フトモ其聲ハト云ヘバ宮商角徵羽ノ五音ヨリ外ナシ其舞節
ハト云ヘバ俯仰進退屈伸疾徐ヨリ外ナケレバ古ノ聖樂ヤ今ノ猿樂

ヤソノ根本ハ一ツ處カラ出ルニテ候然ラバ古ノ樂ニ中和自然ノ則
ガアルカラハ能ニモ中和自然ノ規矩ガナクテハ叶ハヌコトニテ候
私ソノ家ニ生レ候ヘバ何トゾ其本源要領ヲ會得仕リ度ク年來書ヲ
見博文ニ耽リ申候モ一ツハ家ノ一事ヲキクメタキカラノコトニテ
候ヘキサレドモツイニ是ソト存ズルコトモ無之内此間禮記ヲ見申
候ヘバ忽然トシテ謠モ仕舞モコレヨリ外ハナイト暗ニ妙契仕リタ
ルコト有之候コレニヨツテ益々工夫ヲ仕リ候ヘバイヨイヨ據ロア
ツテ百事開悟仕ル様ニ存ズル旨申候ユヘソレハイカナルコトゾト
尋テ候ヘバ九容ト云コトニテ候手ノ容恭足ノ容重云々アレヨリ外
ニ謠ノ極意モナケレバ仕舞ノ法則モ無之由申候ニ付テ拙者申候ハ
扱々其方ハ奇特ナコトヂヤソレホドニ家ノ事ニ心ヲ盡スト云モ感
シ入ル處也ソノ上其九容ハ禮記マデモナク小學ニ載ツテアルコト
ナレバ自分ナドハ暗ニモ覺ヘテオレドモソレホド至ツタコトトハ
曾テ知ラナダアレガ人ノ本法形ノ則ナレバ只上下着テ居ル晴ナ

時バカリノ法則デ有フ様ガナイ凡天下ノ事ミナ一身本法ノスミカ
チカラ仕テ出ルコトデナクタイカフ様ガナイスレバ仕舞ヤ謠ノ上
デモコノ則ガカロウ様ガナイ依之自分ナドノ工夫ノ淺イヲモ思
ヒアタリ愧入りタルト申シタルコトニテ候サテ其以後ニ中ニ覺ヘ
テオルクトナレバ取出シテ考ル迄モナシ右ノ通りニ云タ迄ノコト
ニテ打過候處今度在所デ彼九容ノ處ヲツントシロフトニ合點サセ
ルト云ニナツテ讀ンデ見レバ扱モ扱モ至極ナコト兎角申サレズ候
右ノ九字ヲ入レカヘテ見ルニアレガ聖語ノ不思議ハドウモ一字モ
餘ノ字ヲ入レルコトナラズツラ見レバ氣容ハ肅ナドアル味ド
ウモ云レヌコトニテサテユソ此度讀ムニハ拙者モ説得タト覺ヘ候
サレドモカノ金春ガ様ニ知ルコトハナラヌニキハマリ候アレガ數
十年ノ修行デホツホクシテ天地自然ノ九容ヲ身ナリニ知り得タト
此方ガ知惠デ見テトツタトハ云取リ様ハ此方ガ上手ニテ可有之候
ヘドモ雲泥ノナガセニテ候箇様ノコトデ見レバ只他念ナク年ヲ積

ンダ積累ノ功デチタテハ本ノコトハ知ラヌガ定ヂヤト存候サテ金
春ノコトソレ以後ハ一等モ二等モ藝ガ上リ申候様ニ覺ヘ尤他人モ
サウ見ユルト云由ニテ候コノ金春ハ金春家ノ中興ヂヤト申候
曰服心仕候ソレニ付イテ見レバ馬ヲ乗ルノ則亦皆九容ニテ候
一ツモ違ヒ不申コトト存候

曰ソノハヅク言デモ槍デモ兵法デモ其事ナリニ形リノ違フ様デ其
則ハ天下ノコトヘモタイツテモ違ハヌハズニテ候

曰箇様ノ咄ヲ承ルニツイテモ近頃私ナドハ風甲斐ナキコトニ
テ候ツイニコレデヨイト存候コトモ無之何トゾト存候テハ
手ニ卷ヲ執ラヌ日モナク書物ノコトヲ心ニ思ハヌコトモナク
ツトメ申候サレドモ本法ノ墨尺ヲ知ラヌウチハ又徳ノ進マヌ
モ理リニテ候ガ先年拜顔ヲ得テヨリハ實ニ聖人ノ學ヲ受ケ相
應ニ知モ開ケ合點モ仕テ居ナガラ微塵心法ニ形ダノツガヌト
申候ハマコトニ男兒トハ不被申候今日ノナリガ遊山遊興ニ耽

ルデモナシ博奕打ツデモナシ盗人スルデモナシ入テハ書ヲ讀
ミ出テハ公事ヲツトメ其他大ソレタ不行跡不仕候ヘバ外ノ見
聞ハ左ノミ見苦シク可有トモ不存候尤隱微ノ場デモ人ノ賄ヲ
受タリ後口暗イ奉公スル所存カツテ無之候ヘドモサレバ心ノ
サマハト見レバトテモ人前セラル、コト無之候外面ガ見事ナ
ホド内ノ臆ハクサリ居申ス様ニ覺ヘ候利欲ヤラ名欲ヤラ色欲
ヤラ奢ヤラ諂ヤラサテモワルイ根症ハソナヘテ有之候私ガ様
ナ質チアテガイ候ハバヤワカ顔子モナルマイト存候平生仰セ
ラルルガ皆ココノコトニテ候カト枕ニツイテ考候ヘバマスマ
ス自分ノスキマノミ見ヘテ一切上達ノ力無之候サテ他人ノ情
狀ノヨク見ユルカラ手前ヲ見レバ手前ノコトハ却テ我顏色ノ
願ミラレヌ様ニ覺ヘ候今更申スモ可笑シキコトニテ候ヘドモ
イカガ工夫ヲ用井可然コトニテ候ヤ

曰餘義ナイコトニテ候サレドモソレハ其元一人ニカギラヌコトニ

テ候ソレユヘ力行ノ力ノ字克己ノ克ノ字ガ大切ニテ候サウ氣付ノ
ナイハセウコトガナシサウ氣付ノアツテナラヌハ皆力ノ足ヲヌニ
テ候但其元ノ枕ニツイテ考ガヌケニテ候勿論涵養ハ靜處ガ主ニナ
レバソレガワルイデハナク枕ニツイテハサウ工夫セテバナラヌコ
トデハアレドモ應接ノ場ヲヌカシテオイテ枕ニツイテ悔ミ悔ミナ
リニ起レバ任損シ仕損シテ枕ニツイテハ又悔ミスルハ常住アトカ
ラ悔ヲ云テ通ルト云モノニテ生涯上達ノ功立ガタク候サテ身ナリ
ハヨケレドモ心ノ動ガワルイト有之候ヘドモ身ノ動ナリテ念慮モ
動クモノニテ候ヘバ念慮ノワルイハ身ノワルイニキハマリ候サレ
バコソ外ニ制シテ内ニ養フトモアリ毎度事實デクト云コトニテ候
事實デセヌ功夫ハイツモマタナ打ツニナリ申候間コトヲヨク合點
可有之候枕上ノ省存ハ儒者ガ兵法ノ勝ヲ見付ケタト同前デ云ハセ
テキケバ聽テ驚カス様ナレドモサラバト云テ眞劍ニナルト目眩メ
キ膝慄ヒ心迷フテ何ノ用ニ立不申候事實デスル工夫ハ常住眞劍ノ

誤脱
ルカア

勝負ト同シコトニテ射ルコトハ射ル上デ仕課セ馬乗ルコトハ乗ル
上デ仕習ハチバイツ迄モ鳥ノ水練ニテ候サテ眞劍ノ勝負ハイヤナ
ト同シコトデ事實ノ功夫以テ外大儀ナモノニテ候サレバコソ力行
トモ云セ克己トモ云フコトニテ候ソレガスラナルコトナレバ
力ノ字克己ノ字ハ入ラヌモノニテ候其元ノ様ニ考ヘテ工夫スルト常
住觀念瞑目シテヤル様ニナリテハテハ禪學ノ様ニナルモノニテ候
然ルニ力ノ入レ様克己ノ様有之候其方ノ様ニ只君子ニナリタイ賢者
ニナリタイト大ツカミニ思フハ申々ナラヌモノニテ候コトニ一法
有之候論語ニ曾子曰三省セラレタトアルコトイカガ合點ヤアソコ
ガウケノアルコトニテ候一ケヨイコトヲ云タコトナレバ忠孝ノコ
トハ無之候又アレデモ何モ角モスルコトモ不被申候ソレニ三ト
限ツテ省ミラレタハドウゾマダ右ノ外ニモ事ヲ限ツテ工夫セラレ
タ類多シ皆コトノ旨ニテ候古人ノ學ノ仕方皆アアシタコトニテ候
只バツトヨイコトセウト思フテハ申々ナラヌモノニテ候先づ自己

ノ病ノ甚シイ處サ一事二事キハメテ是チカウ直サウトツント一向
ニカサ用ルモシニテ候會子ノ如キモ猶三ノ事ニアキタラヌ處アツ
テ三ヲ反省ナサレ候アレガ約ヲ守ルト云モノニテ候然ルニ其元ハ
力量會子ノダグヒデナクテ望ム處ハ百行皆立ル合點ニテ候ナラヌ
善ノコトニテ候ヌレバ功夫ハトカク簡ニ約ニ自分ニ於テハ何カラ
取テカカラフツ先ヅヨコナト斜目ヲ立テソレカラ形タナ付ル様ニ
スルモノニテ候ササ此一事ト目當ヲシテ工夫ヲスレバ其事ハカリ
テ外ノ事ハ皆瑤ガアカヌカト思ヘバソノ一事ガ形タガツクト總々
ガ形タガツクモシニテ候ソノ一事ヲ忘レキバ跡ノ事ニ心ガハナレ
ヌモノニテ候故ニ一事ト思ヘドモ全體ノ工夫ニナルモノニテ候全
體ト思フテハ十方ガ敵ノ様ニテ一事モ形タガツカヌモノニテ候ユ
レガ克己力行ノ學ノ大眼自端的ニテ候間其元モ自反シテ是ヲ立
テテ其一事サイヤカラウガ形タナツケラルベク候一事ニ克ツコト
ガナル味ヲ覺ユルト外ノ事モ皆ソレダケツツ克タルルモノニテ候

立誠ト云ホド廣大ナコトハナイニ餘言立誠ト有之候誠ヲ立ル様ナ
工夫デモソノ仕方ハツントザカナ言語ヲツツムト云様ナ上カラ
出ルコトニテ候コレデ此味ヲヨク合點可有之候ツント懸空ニナイ
ザカナ指シ近イコトカラシヤリムリ必至ト念願ニシテ爲拔クコト
ニテ候サテ又コレガ萬事ニアルコトニテ候仔細ハ論孟ノ中へ御門
人方ノ語ヲノスルト云ハナニ大抵ノコトニテハ無之候ナニガ聖人
ノ言ヲ萬世ヘノコス爲ニアツメラレタ中へ門人衆ノ語ヲ載スルハ
ヨクヨク至極ノコトニテナウテハ載セラレヌハツニテ候然ルニ子
夏ノ大徳不踰閑小徳出入スル可ナリト云言ガノセテ有之候小徳ハ
カマハヌ大徳サヘヨケレバト外ハ入ラヌト云コトデハナケレドモ
大本ノ者ガ立タ上ノ小事ニテ候學ブト云カラハ大デモ小デモ義理
ナリニセテバオカヌト云ハ土臺デサテ先ヅコレガ肝要眼目デ何ニ
ハドウ有ツテモヨコガト云處ガ立チバ役ニ立不申候タトヘバ女ハ
先ヅ貞操ガ立タイデハ少々ノ難クセハアラフトモソコハトモアレ

先づ貞女デナクテハト云様ナモノニテ候勿論貞女ハ貞女デモ統
一ツ縫フコトノナラヌト云テハスマヌハスマチドモナニハドフデ
モ先づ貞女ナレバト云コトニテ候女一卷ノコルコトナクテモ不義
ヲハタラカフナレバ其餘ハツシト益々立不申候カフシタコトガ萬
事ニアルコトニテ候是等ヲヨク合點可有之候コレハ親ニ事へ君ニ
事へ下ニ臨ミ官ニ居ル上へ一事一事ノ上マデモスツベリトアルコ
トニテ候枝葉ノコトヲ棄ルデハナケレドモ先づココナト云キメ處
ヲ目當トシテ守リテ立ル様ニスルモノニテ候コレ皆前ニ云タト同
前ノコトニテ候カフ云合點ガチイト四方八面萬事ミナ敵ニミヘテ
ドコヘ切りカカラフヤラノ様ニナルモノニテ候近イコト武藝スル
デモアレニモカカリコレニモカカリアレモ爲タシコレモ習ヒタレ
ト思ヒタテバナシニモ形タガ付キ不申候ヨシ爲テ見テモ力が足ラ
ヌモノニテ候一事ニ達スレバ其ナリノ働キガ全體ヘヒビクモノニ
テ候

十月朔日講後 曰先生嘗テ御物語ニ佐藤氏綱齋先生ニ出處之
義ハイカガトアル時カフシテアルモ出處デヤトアルコトニテ
候由然レバ綱齋先生ノ思ハクハ如何ナルコトニテ候ヤ其禮ヲ
以テ招キテモ御出ナサレ聞敷候ヤ

曰イヤサウデハ無之候佐藤氏ノ問ガ出テ仕ヘテコソ出處ト云モノ
ナレ其元ノ様ニ引込デバカリ居テハ出處ハ無イカトアルコトユヘ
出テ可仕シテ出ルモモトヨリ出處出テ不可仕シテ出ヌモ亦出處デ
ヤ出ルバカリガ出處デハナイト云旨ニテ候サテ先生ノ仕官ナサレ
ナシダハ善キ買テ待ツノ旨デヤヤラドウアツタカソコハ知ラヌコ
トニテ候ガ其招キデアラフナラバ仕ヘラレマイモノデハ無之候其
招キモナカツタト見ヘ申候サテソレハソレモシ出テ仕ヘラレタト
モヨクヨクノ名君名宰相ナラバ知ラズ並ミ並ミノコトデハ一年ト
モ尻ガタマルマイト思ハルルコトニテ候ナゼナレバ先ヅズカズカ
ト直言デアラフト思ハルルソコラニハニベモ味モアルモノデハナ

カツタコトニテ中々ニツトリトナド云コトハ曾テナイ人ニテ候ス
レバ君モ傍輩モ並ミ並ミ散々中ガウルフナルデアラウト思ハ
ルルコトニテ候サテ表向デ云ハレタコトデハナク心安イ此方ナド
打寄タ時ノ話ニ自分ガ學問ト云ヘバ嘉右衛門殿ノ落穂ヲ拾フテ其
説ヲ取失ハヌ様ニスルヨリ上ノコトハナシ德行トテハ皆ガ知ラレ
タ通り如スカラドウシタモノ也何ニ一ツ取ル處ハナイガ唯出處ノ
事ニ於テハ生涯毫末モ愧カシイコトハナイトアルコトニテ候是ハ
一生ノ守リトスベキコトト其時カラウカトハキカナンダコトニテ
候ガソコハ立オホセラレタト云ハ綱齋ヲ論ズル言バニハ不相當ナ
コトニテ候ガ生質モ得處ナリ學術モ至ラルルカラソコ一事ハ研ケ
切タコトニテ候サテ總體ノ氣象ガ只豪邁ナ至テ氣象ノツヨイ生付
テ氣類デ云ヘバ明道ノ春風ニ座了スルカカリデハナク伊川ノ堂前
雪數尺ト云様ナ嚴厲ナ氣象ニテ候サレバ自分ナドガ年久シクツイ
テ居テ隨分自慢ニ思フテ味ヤツタト思フコトデモツイニホツコリ

ト許可セラレタリ褒美セラレタコトハ一度モ無之候ヅント黒星ヘ
イツタ時ガ一通リキコヘタノサフモ有ラフノトアル位ノコトニテ
候徳ノ程ハ此方ガ測ラルルコトデナシ何ニハトモアレ學術ニ於テ
ハ天地ニ建テタダガハズ鬼神ニ質シテ疑ナクニテ候ソレヲ學ノ旨
味ヲ覺ヘタモノノ分ハドフモ離レラルルコトゾハ無之候ガ只世間
ニハ隨分ツクハヌヤリトリノアル人デアツタコトニテ候山崎先生
ノ御噂ヲ聞テモソレ山崎先生ハ太甚綱齋ハ大過ト思ハルルコトマ
マアリソレガアアシタ生付デアノ様ニハ卓越セラレタト思ハルル
コトニテ候孔子ノ歸ランカク吾黨之小子狂簡ト仰ラレタガヤガ顔
曾デナケレバ狂簡デヤトアルコトニテ候アナタ方ガ孔子ノ仰ラレ
タ狂簡ノ徒デアラフト思ハルルコトニテ候

又曰今日其元ナドガ道體ノ詮義ナスルハノリユサヌゾハナケレド
モコレガ甚ダ存養ニナル我モ造化ノ一物ヂヤ何思何慮ト云様ニナ
グルデハナク氣象ガウツダカクモキアガツタユトガ心ニアレバ俗

情ノ營爲往來スル時ニカフデハナイト云コトガ早ク見ユル氣象カ
ラ拔ルコトガ多ギモノヨテ候

十一日講後、マタ私ガ氣象ニカフシタ處ニイテクセガ有之
候コユガ何トカト存候ユヘ申上ルコトニテ候只々事ノアタリ
サハリチ能クトリマハシテモノノ見事ニシスマシタレバセガ
有之候義理ナ外ニシタコトナレバ根カラ云コトハ無之候ガヤ
ハリ義理ハ義理デアリチガラヤヤモスレバ義理ナリカラ直ニ
回護スル様ニナリタガリ候義理チラバ義理ナリデヨイニ其上
ニアソコユコノ全キヲ求ルカラヤヤモスレバ全クシマスガ
主意ニナリテ肝要ノ義理ニヒツミガ出來サウニ存候コトガ平
日ノコトデハサノミ害モナイ様ニ候ヘドモ何ゾ大切チ場ノ天
地ハ崩レテモコユハ逃サレヌ毫末モ手チ付ケラレヌコトデモ
ヤツマリ曲節ガツイテトント土臺チ取失ブニモ至リサウナコ
トデヤト吾身チガラナニトヤラココニスヌマ又膚ガアルト存候

曰近頃ヨイ察シニテ候総シテ義理チ行フ心ハトコ迄モ公平正大デ
無レバ役ニ立不申候勿論其元ノ此度ノ處置ハ聊カワルイデハチク
随分親切チ如在ナイ心カラノ處置デソノ親切チ如在ナイハヨイゲ
レドモソノ様ニ曲節多ク回護スル様ニナルハ悪デハチフテ行義理
ノ氣象ガワルイト云モノニテ候ソレニ付テハトコ物語ガ有之候論
語ノ三年無改父之道可謂孝矣云語ガツイハ説キ難ハ父母之道
ガ善チレバ終身改メヌガヨシ惡チレバ三年チ待フ様ハチイ若シ惡
ルイコトデモ三年過テハ改メヌト云ハハ親ガ博奕打チレバ三年ノ
間博奕打タチバチラヌ親ガ切劔チレバ三年ノ間ハ切劔セチバチラ
ヌト云ニナルコトガツカヘ申候サレドモ唯今集注ガ出來テカチハ
チラリスミ申候コトノ三年チ待テ可改事ハトノ様オコトゾト云ハ
バ在所當改而可以未改者チ言フトアル游氏ノ説デノユル所無之候
ガアノ集注ノ出來ヌ前ニ朱子思召ニナルホド父ノ爲ラレタ事チヤ
ト云テ非道チヲナレバソレチ三年行ハフ様ハチイコトチレバ改メヌ

ザヤガ但父死スルトサツバリト改レバザキニ父母ノ惡ヲ舉テ我一人ヨイ者ニナル様ドドウモ忍ビラレヌトユヘ父ノ非道ヲ改ルト云テモ尤ケウナイ様ニ父モ改メカケテ置カレタトツイデ改ムル様ニ父カラ改ツダザヤラ子カラ改メダザヤラムケヤクナヤトアトノ見ヘヌ様ニ改メタイモノザヤトアルトナリ随分親切ナトデ朱子デナクテハコレホドニ心付ク者ハナイハツノトニテ候時ニ此事ヲ延平先生ヘ伺ハレタレバ延平ヨリ以ノ外質サレ候延平ノ御返答ニハ吾モ人モ道ヲ以テ心ヲ修ムルトザヤガ此様ナ處ガ不埒デハ何ソノ役ニ立ヌ己ニ善ナレバ善惡ナレバ惡改ムルトナレバサツバリト改ムルデヨイニ臭イモノニ蓋スル様ナ父ヤラ子ヤラムケヤクナヤト改ムルト云フガ心ハ至テ切ナ様デ意志氣象甚ダワルイ義理ヲ行フノ氣象ハトコ迄モ公平正大デナケレバトアル段々ノ御意見デ有リタレバ朱子殊ノ外驚カレタト云フガ論語或問ニノツテ有之候其元ノ今日ノ話コレニ似タトザヤガトカク義理ヲ行フノ心サツバ

リシヤシト有リタイ者ソレガゴナクダト曲節サマザマニ入組ンデクルハツントイヤナトニテ候其元ノサフ心付レタコソ幸ナレ猶又右ノ話ナドサモトクト味ハフテ向後ノ守リトセラルベク候

曰毎々克己セテバ仁ノ味ヲ得ヌトアルト仰聞サレ候ヘドモ只ウハソラニ承リ候トクト考候ニマユトニ左様ヂヤト存候タトヘバ妾ニ溺レテソレニツナガレテオルカラドウヤラ親子ノ間ガイナモノデナント勸メテ見テモシツクリトセヌヲトント勇力ヲ以テ其ホダサル、妾ヲ追出シタレバシンミリト親ガイトシウナリト云ナリニタハマズ親ノ前ヘ出テ已往ノアヤマチヲ御免ルサレヨト云ヘバ親ヂヤモノソチガ不行跡ダニ改ムルニナンノト涙流セバソコデ此方モウレシイヤラ辱ケナイヤラテ涙流ス處コ、ラスベテ仁ノ氣象ヲ可見候コレガ彼妾ヲ追出スト云克己ナリニ發出シテ不已モノ有ルト存シ候

曰イカニモヨイ合點至極ヨイ仁者人也ノ人ガ已レテソノ已レガ直

グニ我躬ザヤニヨツテ此已レニ克チバイツマデモ人ト云味ハ得ラ
レヌコナリ合點ハ隨分ヨシサテ此話ヲ話切ニセラレマシク候

十一月廿二日講後 日山崎先生初ハ妙心寺ノ出家デアツタト
申候ガ御先祖ハイカ様ナリニテ候ヤ（以下原書虫蝕ニテ文字
缺タル所處々有之）

日先生ノ本國ハ播州御親父ハ下立賣ノアタリニ醫者ナドシテ暮サ
レタル由也先生少年ノ時以ノ外ナルイタツラ者デ下立賣ノ堀川ノ
橋ニ居テハ人ノ足ヲカイテ堀ヘ落ストクナサレテ御親父ガアグミ
切テ不及是非妙心寺ヘツカハサレタサウニ相聞ヘ候然ルニ小僧デ
モ寺中モデアツカフタモノデ有ツタト云テ候其頃中峰禪師ノ
廣録ト云モノガ渡ツテ今コソハ澤山ニ板行ニモアレ其時節ニハ甚
拂底ニ候ヲヒシナ何トヤラ云寺ノ僧ガ學者デ所持シテ居タチ小僧
ノ時ニ仕カケテ右ノ録ヲ見タイトアルコナリ日頃ノ行跡トハナガ
フタノ故右ノ法師可笑シク思フテナゼニ求メラルルゾト云ハバト

カク見タイトアルコニユヘ然ラバ此録ハ大切ナモノユヘダヤスク人
ニハ示サチドモ懇望ナレバ可示サレドモ見セタ甲斐モナイコトデハ
面白ク無之候ミセルカハリニハ何ゾ其シルシアル様ニセラレヨト
云テ右録ヲ渡シタレバ心得

持歸リナサレテ其後三十日

通リ

バカリアツテ右ノ録ヲ展ストアルコニユヘ彼法師サラバ
ニ何トゾ見覺ヘラレタトモアルカナト承ラウ上卷ニハイカナルコ
ガ有タゾト云ヒモ切ラヌウナニ眞初カラ水ヲ流ス如クニ諳ンシ讀
マル、故中卷ニハト云ヘバ同ジク暗誦セラル益驚テ下卷ヲ問ヘバ
前ニカハルコナシコノ穎敏超越只人ニアラヌヲ見テ彼法師專ラ引
立テ禪學ヲサセマシタト云テ候コレガ先生十四五ノ時ノコト聞
ヘ候其後ツノツテ器量ノ法師ニナラレタユヘ土佐ノ吸江寺ト云寺
ノ後住ノ心當ノ様ナリニテ土佐ヘ御越シナサレタ時ニ當寺ノ一旦
那ガ名高イ土佐ノ家老ノ野中伯耆傳右衛門デアツテ先生ノ只人ナ
ラヌヲ見テ混タト朱子ノ書ヲ見セタト云テ候其頃ノ朱子ノ書

ナドハ甚ダダシナイコデアリシニイカナルコカ伯耆ハ朝鮮本ヲ多ク所持シ居テ朱子語類文集ヲ初トシテサマザマノ大切ナ書共ヲ見セタト云コニ候下地ハ明ヲカナリ何が本法ノ道ヲ聞レタモノユヘ一旦ニ氷釋霧消シテ聖學ノ蘊奧盡ク開ケタ故ソユデ關異ト云書ヲ著ハシテ唐僧ニ示シテ自分ハ儒者トナルゾトアルコトデサツバリ還俗シテ吸江寺ヨリ出ツ、即チ經書ヲ講釋ナサレタト云コニテ便ユレガ二十四五ニナラセラル、時ノコニテ候名ハ絶藏主ト云タト也朱子モ此年頃ノ時ニハ禪ヲ好マレタトアルコトニテ候ガ朱子ニヨク似タコニテ候然ルニ其講書ガナニガ禪學ノカケリ切タモヌケタ氣象カラ直グニ道ノ本源ヲ見拔レテノコユヘニ手ニ執柄ヲ握ツテ疊ヲ扣イテノ講義デ中々面モ向ケラレヌスガマシイコデアツタト云コニテ候ソレカラ伯耆ガ世話ニテ京都吉屋町出水上ル町ニ家ヲ求メテ進セタイヨク學問ヲモサセマシタ時ニ此伯耆ハ器量モアリ學力モアツテ先生ヲモ取立ルホドノ者ナレドモ大

曲モノ

ユヘ先生ノ立志學明ニナルホドウツトウシフナツタト見ヘテ土佐地デノコカ家中デ隨分ノ口利ヲ使ニシテ義絶ノコトヲ申越シタ時ニ先生ハ端坐瞑目シテ初ヨリ一語ヲ出ヌコトナク彼ノ士段々云終リタレバモウ其外ニハ云コハナイカトアルコト故承ツタ趣右ノ通リト云ヘバソレナラヨイハトアル御挨拶マデ先生ノ其時ノ御様子マコトニ度邊ニカ、ラヌ趣デ有タト云コニテ候ソノ後伯耆ハツイニ家モ絶ヘテ彼使士ノ子孫ハ于今アルト云コニテ候ガ其士ガサテ若氣ノ至リ一ト廉自滿デ其上面ヲ云タガ其時先生ノ從容脱洒ナル御様子トカフ云レヌコトナリ今モ思ヘバ汗ガ出ルト毎々申シタト云コニテ候サテ先生ハ御在京デヤ時ニ其頃ハ學問ノヤツヤク端ノ開ケカ、ル時デ誰一人志アル者モナク當地ノ町人ヤ醫者ナドガ茶ノ湯ノ片手ニ講釋キクト云様ナコトデ其間フ處モタゞ徒然草ハドウシタモノデゴカリマスノナント云位ノコトデゾント俗ナリニ平和ニソコノ教ヘラレタコトデ誰一人學ノ蘊奧ヲ扣イタ者モ

ナク勿論先生ノ御器量ヲ見ル人モナカツタト云フニ候時ニ備後ノ
福山水野殿ノ家來永田養庵本名長田ト云後モ長ヲ永ノ字ニカユト云ヘル儒者殊ノ外
器量アル人デ上京シテ此人ガ先生ノ學ヲ扣イテ大ニ驚キタル由ソ
レカラ先生ノ御器量モマスノ發揮ナサル、**唯**人モ知ル様ニナツ
タトアルコニテ候佐藤氏モ此養庵同國ノ人デ同ク先生ニ就テ學ハ
レタト云フニテ候然ルニ此永田ハ氣象ガ曾點カ、リナ人デ其得所
カラ易學ニ達シテ朱子後李退溪ナドモスマナシタリ此永田ガ培
明ケラレタコガイクラモ有之候但易學デ全體カ抜ケ切タコヂヤニ
ヨツテ反ツテ下學窮理ノ筋ハツント大マカニアツタト聞ヘ候ソレ
ニ先生ノ講——學術草創ノ時デ中々蘊奧ヲ盡サル、ト云フハ
ナク唯ソノ大端ノ——講釋ト云モ殊ノ外アラコトデ有ツタト云
フニテ候只先生ノ奥旨ハスベテ綱齋ニ於テヒラケタト云フハ先生
ノ古イ弟子高田味白ト云人ノ話デ聞ケルコニテ候此時永田ハ右ノ
通りナ人ナリ外ニ器量アル人トテハ佐藤氏ガナトキホツイタモノ

マデ、多クハ先生ノアラフ端ヲヒラカル、チアレ切リノコト思フ
テイタコサウニ相キユヘ候ソノ頃綱齋ハ醫生デ永田ガ方ヘ毎度御
出チサレタサウチガ先生ハ永田ト殊ノ外相口ユヘヒタト御越シチ
サレテハ綱齋チ醫者坊主ノト呼デ殊ノ外珍重ガラレタユヘ此永
田ガ勸メデ先生ノ門下ニチラレタト云フニテ候然ルニ綱齋ハ下地
ニ力ノ餘リアルノミナラズ其學問ガツント見取リデナク目責ニ推
ツマル氣象ユヘ彼山崎先生ノ端ヲ開カル、ソノ端ニツイテハ目ノ
ユニ推シ究メノナサレタトミユルソレデ先生モ義理ノ精微ハ重
次郎チヤト仰ラレタ由ナリ綱齋仁義ノ問目ニ先生ノ批答チサレタ
ガ有之ソレチ見候ニ必至ノト朱子ノ字註チ持テ來テソレカラ割
リ出シ割リ碎キチシテノ問目デ先生甚褒美ナリ又佐藤氏ノ仁說チ
見ルニワルイデハチケレドモ兎角物事チハナレテ見取リ思入カラ
云ル、コデ尤ヨイ筋チ聞レタモノユヘフリハセチドモアソコニ綱
齋ノ仕立ト甚チガフタ處ガ相見ヘ候カフシタスタラデアツタモ

クニヘソレデ門人ノ中デモ相嫉ムコナクアツタウナガ皆實意ニ
ハトカク先生ノ血脉ヲツイダモノハ綱齋ト心ニハ伏シテ居タリニ
テ外デモホソソノ咄ハ聞クコニテ候山崎先生ハ六十五デ御死去ニ
テ候可惜ナリモハヤ御死去後四十年バカリニモナリ申候

日綱齋先生ノ御素生ハイカニテ候ヤ

曰本ハ江州高嶋ノ人デ郷土ガ浪人デアツタサウニ候祖父ハ京ノ人
御親父ハヨホド蓄ヘナドモ有ツタト見ユル御兄弟ガ三人アツテ總
領ハ道徹老次ハ綱齋次ハ淺見吉兵衛ナリ初ハ高嶋ト名乗ラレタレ
トモ後ニ淺見ニ復姓セラレ候道徹老ハ脇道立ト云醫者ノ弟子ニ綱
齋ハ儒者ニ吉兵衛ハイカナルオモハクカ米屋ヲサセラレ候ソレモ
米賣買ト云デハナク市橋下總守殿ノ米ヲ預リ其ノ仕送りヲスルト
云様ナリデアツタト聞ヘ候此御親父ノナサレ方ガ吉兵衛ハ右ノ通
リニ仕向ケサテ道徹老ト綱齋ヲバトカク物ニ仕立ル合點デ凡當時
名アル人ニハ費用ヲ構ハズ見ヘラレタト聞ヘ候然ルニ綱齋生得

自謙シテ世ニ街フコガキヲ殊ニ山崎先生ノ學ヲ受ケラレテ以後
ハ猶々利祿ノ筋ヘハ御心ガ無カツタユヘ御親父ノオモハクナドニ
ハ猶ソムカレタ趣ニ聞ヘ候靖獻遺言ヲ板行セラレタツノ前年ニ御
親父ハ御死去ニテ候ヒシガ歎シ申サル、ニハ自分ガ當世ニ用井ラ
レタコトヲ親ガ常々氣ノ毒ガツタコトニテ候ガコレ程ノ書物ヲ仕立ル
程ニモナツタコトヲ聞カレタラバサツ悦バル、デ有ラフニトアル遺
憾ノ話ガ折々アツタコトヲ候然ルニ吉兵衛ハ店バツテ居ラレタガ
ハリニ一入内證ガアツタコトナリ道徹老ハ埒ノ明ヌ人ナリ綱齋ハモト
ヨリ清貧ナリユレニ付イテ甚綱齋ハ御辛勞ガサレタ故門下デハ皆
千金ノ玉ヲ鼠ニ投ウツシヤト云テイツレモ氣ノ毒ニ思フタコトニテ
候サレモ先生ニハカク學問ノ仕方ノニヤウナツナ通りニ一家ノコ
ニモツント思召マ、ニセネバガカレヌ御氣象ニテソレガ勢モアレ
バナレモマコトニ身ノ奉養モ足ラヌナマ、ニアタルサレ
ノ世話ヲ身ニ引ナサレ何ンデモコト云ユヘニ

倍御苦勞モ多カツタコニテ候第一ニハ繼母ヲ榮壽殿ト申候ガコレ
ヘノ事ヘラレ様ハ驚入タコニテ候コレハヤハリ吉兵衛ノ方ニ居ラ
レ候ガ所ハ御幸町松原下ル町デアツタニ殊ニ病身ニカラレテカラ
ハ別シテ苦勞ノコニテ候晝ハ午前ノ講書雜用ヲツトメテ晩方ヨリ
ハ彼繼母ノ看病終夜ツトメテ朝々歸ラレ候イカナル祁寒酷暑ト云
ヘテ一日ノ間斷ナク末期マデツトメラレテソノ道筋モカハラヌ
ヘ道筋ニ居ル者デモ皆感服シタト云コニテ候殊ノ外清貧デ一年ド
ウモイケヌコガ有ツテ自分ナドモ同ク貧乏ニハマツタレドモドフ
モ處置ガナサニ母ガシテオカレタ正月衣ヲ代ガヘテ進ゼタコナド
モアリ可笑コモサマムナリ御死去ハ六十一ニテ候ガアタタノ心
ニハナントモアルマイコオガラ外カラハ殘念ナコガ有之候晩年ニ
ハ侯伯モ其ノ名ヲ稱セラレ 仙洞様モ先生ノ名ヲ知ラセラレテ
仰出サレタト云コナリ今少シ御存命ナラバト思フコ大分有ツタコ
ニテ候先生ハ大男デヨク肥タル人ニテ候屋根ガモルユヘ自分ヲ相

手ニシテハ屋根ヘ上ガラルレバ蹈ル、處ガヌケル或ハ講座ノチダ
ガ落ルト先生ノ本ヤリテ自分ガイツデモソノ相手ニナツタコニテ
候ソレホド清貧ニアツタレモ先生ニハソノナリニ安シツイニ富貴
利達ヲ求メラル、心ナク世ニ手出シナサル、ト云コハ嘗テナカツ
タコニテ候晩年山本源藏山本半助サド勢アルモノニテ講座ヲモ立
テ、進ゼタリ御勝手モ兎モ角モナル様ニシテ進ゼタレバヤガテ御
死去ナリ先生ニ在テハ御心モナイコナレモ手前ナドハ思出シテハ
痛心スルコニテ候サテ其ノ時分自分ガ清貧トカク云ル、コナク候
ソノ頃親ガ病氣デトフシ京中ニ居ラレヌ事體ユヘ 小關
ノ邊ニ微妙寺ト云寺中ヲ借りテ居申候ガソレガ病父母姉 一タ
モノニテ候母ト姉トハ此ノ様ナ山中ヘツレテキテ何ントスルゾト
云テセゴス親ハ健忘ノ様ナ症デナニモ覺ヘズドウモセツナイトモ
シユツナイトモ云レヌコニテ候シガ其中ニモ京都ヘ通フテ易サキ
ト申候隔日ニ通フタコニテ候カソレガ朝ノ講釋ニモ合フ様ニクル

カニハ大津ハ未明中ニ出タリナリ夏ナドハ路次ノ衣服ハ講座ニテ
ハドウモ着ラレヌヘニ路ノ間ハ衣服ト袴ヲバ刀ノ先キニク、リ
付ケテカツイデ襦袢一枚ヲ通フタニテ候ガソノ様ニシテ通フニ
氣ノ毒ハヒタモノ綱齋留守ニテ候ユヘコレニヤホツト困ツタリデ
有之候ソレカラ歸レバ親ノ看病ヲシテソレカラハ又出京スル姉ハ
未嫁時ナレバ山中ニ留守モナクハナキオクヲモ覺束ナシ身代ハナ
ラズ其上ニマダウルサカツタハ三里ノ行程ヲ通フ自分ノコナレバ
先生モナトハ思ヒヤリモアラフコト思ヘバソレヲトラヘテ諸方ノ
狀ヲカ、セタリ或ハ諸所ノ使ヲ云付タリセラル、イヤトハ云ハレ
ズ是ハ自分ヲサケレバナラヌカト思フコトニモ有之候ガイカサ
マハクシキ人ニテ有之候ツイニ思ヒヤリノ氣色トテハ曾テ無ツタ
コニテ候歸ルハイツモ夜ニ入り或ハ微妙寺ノ門ガシマツテ山越シ
歸ツタコトナドモ有ツタコトニテコ、デ自分ガクシケルト役ニ立タヌ
處ニテ候ガソコハ屈セズ雨デモ晴デモヒルムコトナク隔日ニ通ヒト

ホシタリテ其中ニハ煩フタモ有ダレドモソレニモ隔日ニ通フコ
ハ意リ不申候玄悦ナドニ若大津海道ニ倒レ者アラバ必自分ヂヤト
思ハレヨト戯レタコトニテ候或時ヤツコ茶屋ノアナタニドウハレト
云餅ガアツテソレヲ綱齋ヘミヤダニ進ゼタレバ日頃大食デ餅好キ
ニテ候モシガフカ、ト喫ナカガヲ
餘計ガアレバマダヨ
イハトアルコトヲ笑ハレ申候又或時アマリ
ツ、カヌト思ヒ候
ガイヤ、ト思ヒ直シテ詩ヲ作ツテ綱齋ヘ見セ候ヘバソナハソレ
程ノ辛苦ノ中ニヨク此詩ガ出來タト有テ笑且褒美セラレ候其詩ハ
寺在大津小關間 僧房五六半無主
北窓座見比良峰 東臯步望志賀浦
樹稠落葉足炊飯 土濕躑鴉宜種圃
平生素欲咬菜根 今日幸得嘗辛苦
壯骨不憚負米勞 嚼菽飲水奈病父
云コトニテ候イカニテ先生モ珍重ニ思召タガ自分ハサフハ仰

ヨレズ他人ニ丈夫ト云者ハ新七ノトデアヲフト云レタト云トナ再
傳ニ承ツタ其後自分ニ強齋ト云號ヲ付ケテクレラレタガ丈夫ト云
ハ工夫ノ熟處ヲ云トナレバ中々自分が當ル處デナシ強ト云ハ自分
ガ得處デ張ツテハリ付ル力ハアル生付ニテ候ユヘ此名ニハ耻カシ
イコハナイデアヲフト思ハレタルコニテ候ソノ後又寛ノ字ヲ付ケ
テクレラレ候ガ反復スルニ先生ノ教ラル、懇篤云ヒ盡シ難ク候強
ト云ガ只一面ニ向ズルト必ズ寛ナ味ヲ失フ者ニテ候ソレデ又寛ノ
字ヲ付ケテ下サレタト覺ユルコト候サテ小關テ親ハツイニ死候
ガソレカラハ喪服デ納齋へ通ヒタレバ二三度目ニナセ喪服ヲ着テ
クルゾトアツテ叱ラレタソノ後ハ止メタコニテ候ユレモソノ時ハ
人ガ何ニト云ハフトモ苦シカラヌコトトシト三年ノ間ハコレデツト
メテ人ガ仰ガリ者ヂヤト云ヘフトモ反ツテ面白イナドト云様ナ心
デ路次デモ人ガ怪ミ云チキイテモ一ト藤ヤルト云様ナ心デ叱ラレ
テ止メハ止メタレドモ
服ガ着テ通ヒタイ様ナ心ニテ有之候

今思ヘバ大キナウツケト思ハル、コニテ候コレガ先生ノ寛ノ字デ
教ラレタ處ト思ヒアタルコニテ候サテ此ノ間易ヲミレバ自克曰強
ト有之候最前強齋ト號ヲ付ケラレタハ自分ガツヨミバツタ處ナバ
褒美カラノコカト思ヘバサウデハナクテ此強ナリニ本法ノ強ハ自
ラ克ツコナリ是デナクテハ眞ノ強ト云モノニ無之候ナレバ名ニ於
テ耻ル處ナキニアラズ先生ノ教ヲ空シフスルコト惜シク思フコニ
テ候サテ右ノ様ニ辛苦シテ通フ中ニ易傳ガ畢リ候ソノ時ノウレシ
サ推量アルベク候サテモ大慶ニアツタコト今ニ忘レラレズモハヤ死
ンデモ恨ナイト思フタコトニテ候コレハ不圖シタコトデ昔物語ヲ長々
シク云タコナリ

曰承ルニツイテ感激不堪情存候

曰譯モナイ身ノ上話何ノ役ニ立ツコトモナイガイカサマ此様ナコトモ
感慨ニハナルモノニテ候此事ハツイニ誰ニモ話シタコトモナク此事
ヲ知ツタモノハ文藏ト三井寺ノ圓實坊ト財光坊トナリ此等ハミナ

浮屠ヲハアリナガラ球數切テ束髮ノ志願ヲ居タ者共ニテ候事體ガ
ナラヌコト未ダ其志ヲ遂ケズ殘念ナリニテ候

學談附錄 十

苦學

學問ハ人間生涯ノ大事ニテ遊ンテ樂ヲシテ居テソレテ成就シ様筈
ガナイ心力ヲ盡シ十分苦學シテヤリヌカンデハ決シテ成就スルコ
トデナイナルヲ少シヤリカケテ見テドフモナラヌト云テ中途デツク
ナルハ學問ノ何タル者タルヲ知ラズ苦學ナント云コトハアタマデ知
ラヌ者ナリ中庸ニ人一能之己百之人十能之己千之トアリテ兎角學
問ハ百倍ノ功ヲ積マホバ成ルコトデナイソコデ果能此道矣雖愚必明
雖柔必強トアルゾソコヲ章句ニ呂氏ノ説ヲ引テ夫以不美之質求變
而美。非百倍其功。不足以致之。今以鹵莽滅裂之學。或作或輟。以變其不美
之質。及不能變。則曰天質不美。非學所能變。是果於自棄。其爲不仁甚矣ト
アルサレバ學問ノナラヌト云ハ百倍ノ功ヲ用非ヌカラデ果シテ能
ク百倍ノ骨折サヘスレバ必ズ成就スル筈ノ者デソレガ成ラヌト云
ハデズイ自分ガ骨折サセヌカラデ必竟ユケテ不調法ツサレバ學問

ハ苦學ヲナフテハナラヌコト知ルベシ扱其苦學ト云ニモ色々有テ
一樣デナイガ凡ソ古ノ其學ヲ成就シタ人ヲ見ルニ皆非常ノ苦學ヲ
シテヤリヌイタ者ナリソノ非常ノ苦學ニ堪テヤリヌイタレバコソ
其學見事ニ成就シテ天下ニ卓立シタル者ナレ本編學談中末條ノ如
キ之ヲ讀ム者古人苦學ノ實ヲ熟察シ自己身上ニ反省シ我用力ノ未
熟ニシテ語ルニ足ラザルヲ恥テ發憤シテ如何ナル艱難ニモ堪ヘ百
倍ノ功ヲ用非テ以テ其學ヲ成ス所以ヲ力ムベシ人學バザレバ已
已ニ學ブカラハ境遇ガトウノ惟質ガドウノナド、云フハ一切言譯
ヲ立ツコトデナイ大抵今人ノ學ヲ爲スハ氣力ノナイコトデ古人ヨリ之
ヲ視レバ只兒戲ノミ已ニ苦學ヲ爲サズ何ヲ以テ其成就ヲ望マンヤ
ソノ成ラザルモトヨリ宜ナリ人學バザルニ非ズ但優遊怠惰ニシテ
未ダ嘗テ憤ヲ發セズ一生何ノ成ス所ナク百年ノ事業只兒戲ヲ剩ス
豈可恥ノ甚キニ非ズヤ古人既ニ能ク艱難辛苦ニ耐ヘテ其學ヲ成セ
リ我モ亦人ナリ豈獨リ之ヲ能クセザルノ理有ンヤ以テ一場ノ話説

ト看過スルコトナク此ニ觀感興起シ勇猛ニ力ヲ着ケテ苦學セザル可
ンヤ

修身 卷末ニ載ル所ノ談話筆記ト參看スベシ

當時ノ世ノ中讀書者ハ極メテ多イト云ガ扱聖賢ノ書ヲ讀ム者ガ少
ナイヨシタマシ有ツテモ只一ツノ書物トシテ讀ムダケノコトデ此書
ヲ讀ミ此理ヲ知ラ之ヲ我ニ得様ト思フテ讀ム程ノ者ガナイソレデ
讀書者ハイクヲ多クテモ聖賢ノ學ヲ知ル者ガナイソレ故斯道學ガ
天下ニ明カナラヌゾ扱其聖賢ノ學道學トハ如何ナル學ゾト云ニ修
己治人ノ學ナリ人皆此身アレバ其身ヲ成合ニシテヌラ、オク筈ノ
者デナシ第一我身ヲ修メネハナラヌ已レノ身ガ第一修ライデハ人
ヲ治メラレル者テハ決テシナイ扱修身ノ大事ト云事ハ誰モ知テ
居ルコトナリサレドソノ身ノ修メ様ヲ知ル考ガ少ナイ今此ニ軒端一
ツ修復セフト云テモ徒手デハナラヌソレノ用意シテカ、ルコナリ
マシテ斯身ヲ修メ様ト云ニサフダヤヌクナル者デナイ其法ノアル

コト人イヨク其身ヲ修メ様トナラハ上ニモ云ガ如ク斯道學ハ修已
治人ノ學ナレバ道學デナフテハ身ヲ修メルコトハナラヌゾ格物致知
誠意正心修身齊家治國平天下ハ大學ノ八條目ニテ格物致知誠意正
心ハ身ヲ脩ル所以ニシテ齊家治國平天下ハ我身ノ修リタル所ヲ以
テ人ヲ治ルノゾ如此クケニテ只修身トイヘハ一ツノコトノ様ナレド
モ其身ヲ修ルニハ格物致知誠意正心ト段々工夫ソアルコト只ソレノ
ミデハナイ之ニ先ツニ小學ノ下地ガナフテハ俄ニ大學ノ工夫ガナ
ルコトデナイサレバ小學大學許多ノ工夫ヲ積マネバ身ハ修マラヌ故
ニ眞箇ニ其身ヲ修ルニハ斯道學デナフテハ決シテナラヌコトゾサル
ナソノ道學ヲヨソニシテ身ヲ脩メ様ト云ハ徒手デ屋敷ノ修復ヲ仕
様ト云様ナモノソレ處デハナイ到底ナルコトデナイゾ人須ク先ツユ
ノワケヲ知り得ルヲ要スベシユ、ニ合點ガイツタナラバドフデモ
斯ノ道學ニ志ガ、ネハナラヌ筈ナリ扱ソノ小學大學ノ工夫ハ今一
言ノ盡スベキニ非ズ眞箇ニ斯道學ニ志ス者ニシテ方ニ與ニ語ルベ

キナリ

讀書

學問スルニハ書ヲ讀ネバナラヌ書ヲ讀ンデ道理ヲ知テ之ヲ已レニ
得ルガ學問ナリサレバ書ヲ讀ム計リガ學問デハナイガ書ヲ讀ネバ
學問ハナラヌコトニテソノ書ノ讀ミ様ガアルイト一生涯書ヲ讀ンデ
五車ノ書ヲ傾ケ汗牛充棟ノ冊ヲ讀破シテ博覽無比ト云タ處ガ道理
ヲ知テ之ヲ已レニ得ルノタツクニナラネバソノ博覽無比モトント
無用ノ長物ナリ讀書モ雜博ナハ論ズルニ及バズヨシ當讀ノ書ヲ讀
ンデモ已レニ切ニスルコトヲ知ラズ空々讀過シテ得ル所ナケレバ俗
諺ニ云所ノ論語讀ノ論語知ラズト云者ノミソレ故程子モ今人不會
讀書。如讀論語。未讀時。是此等人。讀了後。又只是此等人。便是不會讀ト仰
ラレタリイカニモ親切ナリ此語ハ論語集註ノ初ニシテアツテ誰
モ承知ノコトナリ此ヲヨクク熟思シ書ノ讀ミ様ヲ合點シテ生涯ノ
讀書サムダニセヌ様ニカムヘキコトナリ此ニ一ツ話ガアル昔讀岐ノ

人何某トヤランガ江戸へ出林家ニテ十九年修行シタト云人ガ京都
へ行テ綱齋先生ニ見ヘタレバ先生十九年トイヘバ餘程ノ年數ナリ
大學ハスンダデアアラフガ入徳之門也ト云ハドウゾ云テミヤレトア
リタレバドフモスミマセヌト云タソコデ先生改メテ學バル、様ニ
ト云レタト云フガアル人十九年モ專ラ修行スルト云ハ容易デナイ
ソレヲヨフヤツタカラハ果シテ書ノ讀ミ様ガヨカツタナラバ必ズ
已レニ得ル所アリテ天晴ナ學者ニナル筈ナリ處ガ餘ノコハ扱置大
學ノ眞初ノ入徳之門也ガスミマセヌデハ十九年ノ讀書果シテ何ノ
狀ヲ爲セシヤ書ノ讀ミ様ガ悪ルカツタニ相違ナイ嗚呼人生有限一
日半日スラ猶惜ムベシ然ルヲ十九年ノ許多ノ日月ヲ空々過了シテ
一句ノ得ル所ナキハ豈可惜ノ限リニ非ズヤソレハ十九年ノ長日月
ノ讀書ナレバ隨分記得シタコトモ有リナンナレドモ入徳之門也ガス
マイデハ是レ果シテ斯學ニ於テ得ル所ナキ者ノミ扱ソレハ昔ノ話
デハアルガ程子ノ仰ラレタ通りデ人ノ不會讀書久シ今ノ世ニハ隨

分カ、ル讀書者モ有フゾガ、マノ昔話ト一ツニ聞流シテハスマ
ヌ直ナニ自家身上ニ反省シテ自ラ警戒シ以テ終ニ不會讀書底ノ人
トナツテ生涯ヲ誤ルコト無ランヲ要スベシ元來讀書ト云ガ慰事デハ
ナイ之ヲ讀テ道理ヲ知テ之ヲ已レニ得ルタメノ讀書ソ讀書豈容易
ナラシヤ人須ク思テ致スベキナリ

讀先達遺事

學者ハ聞道ト云ガトントノ志願ナリサレバユソ朝聞道夕死可矣ト
アルゾ處ガ修行ノ仕様ガソノ道ヲ得ヌ日ニハ生涯骨折テモ何ソ得
ル所ナク道ニハ遠クシテ果ルサレバ學問スルカラハ已レノ志ヲシ
カト立テ明師ニ從フテ道ヲ聞クコトヲ求メ一日モ猶豫スベカラザル
ナリ此頃先達遺事ヲ讀シニ佐藤子到江戸。稅駕未移晷。聞人說師在洛
開講易。即日登道。還京師ト云一條アリ之ヲ讀ンデ大ニ感シタコトナリ
昔日百三十里ノ往還豈容易ナランヤ然ルニ其遠キヲ遠シトセヌ其
難キヲ難シトセズヤツト行キ着イタ處ヲ直ダツノ日ニ引返シテ隣

歩行ヲモスル様ニ容易ニモラレテ些トモ難色カキハソノ聞道ト云
志願ノ至深至切ナル者アルヲ以テナリ古人ノ學ニ志スコト篤クシ
テ道ヲ聞クヲ求ルニ急ナル下此ノ如シサレバコソ能ク其學ヲ成就
セシナレ今日ノ人モ是程ノ思入カヘアレバ我モ亦同ク人ナリ其學
豈終ニ古人ニ及ブ能ハザルノ理アラシヤ然ルニ但是志ナシ是ヲ以
テ其學爲スガ如ク亦爲サザルガ如ク生涯ヲ空々過了シテ得ル所ナ
キニ終ル豈古人ニ恥ザル可シヤ獨リ古人ニ恥ルアルノミナラズ豈
自家ノ本心ニ恥ル所ナキヲ得ンヤ此當ニ發憤勇往スベキ所ナリ

又

又遺事中ニ綱齋壯。常帶一長劍。方鐔大三寸許。篆鐫赤心報國四字トア
リカウ云フハウカト見ルトドウヤラ武人メイタイノ様ニ思フ者モ
有ラガサラデナイ是レガ即チ學問カラ來タモノナリ先生ノ志ハ靖
獻遺言ヲ見テモ知ラル、士ハ節義ト云ガ大事ナリイウラオガ有
ツテモ何が出來テモ臨大節而不可奪ノ節操ガナラハ士トスルニ

足ラヌ士常ニコノ赤心報國ノ思入ガタシカニアルデ臨大節而不可
奪トガ出來ル平生ニコノ思入ガナラテハ大事ノ場ニ臨ミテ脇カラ
奪ヒ搖カストガナルゾレモ只氣上カラ粗ク出タトデハホンノ
デナイ學問カラ道理ヲ磨キ上テ人倫ノ道ガ明カニナツテソコデ
赤心報國ノ思入ガタシカニナツテクルガ眞ノ士ト云フ者ナリ

性質

性質ノ好キ人ハムサトシタ惡事ハセヌ者ニテ大抵善ナリソコガ善
人ナリ扱人間ガコレデスムコナレバ別ニ學問モ入ラヌコナルガ何
分コレデハスマヌ處ガアルヲ思フベシ只性質ノヨイ計リデハアラ
イ處ハヨイ様デモ細カイ處ヘイクト更ニヨイ處ガナイ自分ニハ勿
論惡ルイ腹モアルデナシヨイ積リナレドモ悲シイコトニハ理ガ見ヘ
ヌ故善イ積リデ惡ニナルソコナスツカリ善クスルハ學問ナリサレ
バイクラ性質ガヨフテモ學問デナクテハ仕上ゲガナラヌ學ノ終ニ
不可已チ知ルベシ性質ノ好イト云者ガカフナレハ惡ルイ者ハ云迄

温知餘筆附錄七
勢海一滴七
狭むしる下
一精里先生ノタマヒシハ古人ノ文三百篇ヲ暗記シテ後ニ筆ヲ下セ
バ文章ハナルナリ古人ノ詩千篇ヲ暗記シテ後ニ筆ヲ下セバ詩ハ
ナルナリトノタマヒシサレト暗記モシテモ容易ナラズ強テ暗記
セントスレバシバシカ間ハ記スレドモ久シキニハ堪ズ暗記ハ記
スルニ意ナクシテ自然ニ熟シテ記セシナレバ終身忘ルト云ハ
ナキナリ又ノタマフ試ミニ趙氏ノ墨帖ニ就テ日々ニ三百字ヲ書
シ一日モ怠ラズカクシテ十年ヲ經タレバ書ハ出来ヌルモノナリ
トサレド先生ノ如キ大才力ハカ、ルヲモ出来ヌベシ吾輩此才力
無レバトテモ爲スニ堪ヌナリトノタマヒシ

温知餘筆附錄七

勢海一滴七

狭むしる下

一或日鳴ニ問テリタマフ子ハ文章ヲ學ブニ志スト見ユ何ノ文ヲ好
キテ學バル、ヤ鳴答ヘテ曰ク鳴不敏ナレド從來南豊文ヲ讀ミ竊

カニ議論ノ醇正ヲ愛シヨシヲ學ハント志セリ但爾魯鈍ノ質志未
ダ專ララズシテ得ル所ヲミサイカシ先生曰ク言ヲ所善シ南豊ノ
文朱子モ亦學ハレシ見ヘタリ持論ノ純一ノ比類ナントイフベシ
コレヲ學ブ太ニ善シ但シ文ヲ作ルノ方ハ八家ヲ熟讀スル外ハナ
シコレヲ讀ムノ方先ヅ八家ノ中ニテ已レガ學ハント志ス所韓柳
歐蘇等何レニテモ一家ニキテ朝夕反復熟讀シテ何レモ皆誦ヲ
成スベシサレド韓文ヲ原道ヨリ一々熟讀セシトスルハ僻事
ナリ其故ハ極メテ韓文ハケバトテ其中ニハ思ハシガヲ又文モア
リサルヲ始ヨリ終迄一々誦ヲ成ントセバ力倦キ氣屈シテ其業半
ニシテスタルベシタメ已ニテ不アル文ヲミテ撰ミテ反覆熟讀シテ
誦ヲ成スヲカギリトスカクシテ或ハ半年或ハ一二年ヲ經ヌレ
バ又柳文カ歐文ヲ學バント思フ心出ヅルナリ其折ハ其マ、學ハ
シト思フ柳歐ニ移シテ始メ韓文ヲ學ビシ法ニテ熟讀スベシカク
シテ千餘編ノ久シキ八家ノ中循環シヌレバ筆ヲ執リ文ヲ作ルニ

字句篇章自ツト八家ノ文ヲシタチルモノナリ子今曾文ヲ好マバ
此法ニヨテ心ヲ用フベシ一年二年ヲ經テバ又外ノ文ニ移シ學ハ
ント思フ心出來ベシ是レ文ノ進ムナリ我若カ、リシ時始メハ李
王ニ迷ヒ中頃ハ袁中郎トナリヤツヤクシテ非ヲ悟リ八家ヲ宗ト
スルコトハナリヌ今モ其事ヲ思ヒ出レバ汗出ヌ文章作ラント思
フ者ハ八家ヲ主トスルヨリ外ハナシ子志アラバ我言フ所ニヨリ
テ學ブベシ誤ツテ已レタ如ク後來ノ歎ヲ發ス可ラズトイトホモ
ゴロニ教ヘ玉フ

一文章作ラント思ハ、專ラ序記ニ力ヲ用フベシ序記ハモト議論ト
叙事トヲ兼ズル者ナレバ序記サヘヨク作り得、其餘ノ諸體何レ
モ思フマ、ナルベシ初學ニ叙事教ユルハ亦一説トモ云ベシ

一文章ヲ作ルニ古人ノ論ヲ副竊シテ已レガ議論トスベカラズ何ニ
テモ已レガ意モテ書クゾケレ

一文章ヲ作ルニヒタスラ心ヲ用テ書クハ勿論ナレドトモスレバ始

ヨリ推立テ、カクベカヲ筋ヲ飽クマデカヲ盡シ心ヲ用ヰテ
知ラザルヲアリ反復再三ニ至リ始メテカク説ヲ立ルハ然ル可ラ
ズト思ヒ其マハ打スデ、又別ニ趣向ヲ立ル者アリ是レ大ニ僻事
ニテ舊見ニ就テ新意ヲ來スト云ツヨケレ左セザレバ始メ心ヲ用
ヰシ事皆無益トナリ跡ヨリ考ヘシモノハソレ程ノ功ハツマズヨ
テ舊見ニ就テソレヲ引直シ新意ヲ來スヲヨシトハスルナリ
一四書ヲ考究スルニ集註ヲ見テハ一通リ疑モ生ゼズ不審モ左ノミ
無レテ末疏ヲ見レバ色々ソレニ付テ疑モ生ズイカト問シニ先
生曰ク是レ讀書者ノ通弊子ノミ然ルニアラズタ、集註ヲ讀ミテ
飽ク迄講究シ末疏ヲ用ヰザルヲヨシトス余子弟ヲ教ルコノ如ク
ニシテ其ウチ五經ノ大意ヲモホク解シ得ル程ニ至レル者ニハ始
メテ蒙引存疑淺説オドヨクナリ許シテ其餘ノ末疏ハ決シテ見セ
シメズ近頃李沛霖ノ異同條辨ヲ見ルニ其中議論見ルベキ者多シ
陸稼書ハ清朝第一ノ人物ニテ其讀本大全余常ニ用ユル所其ノス

ル所蒙引存疑淺説ノ説皆盡シト云フベシ
一好シテ末疏ヲ讀ミ集註ノ正意ニ遠キモノヨロシカラズサレド云
ハ、集註ノ範圍ヲ出ヌトモ云ベシ都下ノ儒者已ガシ、忌憚ナキ
ナリ言ヒ罵ルヲ聞クモ厭ハシケレサレド是レモ世ノ新奇ヲ好メ
ル常情ナルニマシテコレモテ口ヲ糊スル者ナレバ深ク悪ムニモ
足ラヌ事ニテタ、蛙鳴蟬噪ト聞テヤミナマシタ、佐藤捨藏ガ玉
新建ノ學ヲ好ムルユレシ惡ムベキ事ナレ彼レ今林家ノ學頭トシ
テカ、陽儒陰佛ノ説ヲ唱フ世ニ眞儒ヲ乘シテ後來ノ害ヲ
殘サンモハカリ知ラレズト眉ヲヒツ、玉
一近頃佐藤ガ著ハス所トテ言志録ト云フ書ヲ人ノ見セシテ一過セ
シニ疑モナク陽儒陰佛ナリスマヌ事ニテヨソ有ルナレ
一寬政ノ昔三先生ヲ始メ東西諸儒經學文章皆兼備ハリ所謂通儒全
オトヤランニテ有シナレ、教ヲ受ヌル者一人ヲ師トシテ事足り
ヌ今ハ其頃ノ人多クハ物故シ殘ル儒者トテ經學文章兼備ナク

ル人ハチシソレ故學ガ者モ昔ノ様ニ一人ヲ師事シテ事起ルト云
フコハ出來ヌナリ先ヅ文章ハ一齋懶堂カドニテスヤセテモ經學
ハ無シ闇齋家ヨリ外ニ程衆ヲ崇尙シテ説ク者無ケレバ闇齋家ニ
タヨルベシソレモ狹陋偏固ノ弊多クレバウカト公學ニ難シ若州
ノ山口菅山ナド老輩ニテ人物モナトナシク隨分博ク讀メテ固陋
ノ弊ハナキ方ナリ予モ先年書生ヲ山口ニ頼ミ遣ハシヌヨク導キ
クレヌ此人ナドヤ然ルベカラザレ是レ齋カ昔ヨリ人無キコトハ知ラ
レ侍リヌ文運ノヤ、否ニ趣クニヤト歎シテノタメニ
○以上遊學中ノ聞書ナリ次ノ一條ハ後年ノ錄ニシテ此ニ附記
シ玉ヨシ者ナリ
天保癸巳ノ冬碧海柴野先生江戸ノ藩邸ニテ中風ノ疾ニカ、リ玉
ヘヌ行歩ハ心ニカナハザリシカド精神ノ變リハマレマカズタマ
ノ此冬ヤツカレ祇役ノ命蒙リテ東ニ來リヨノ由人傳ニ聞テ深ク
愕キシカド公ノ暇ナキマ、漸ク明レバ甲午ノ正月廿一日若狹ノ

山口菅山先生ヲ訪ヒテ歸ルガニ先生ヲ訪ヒ奉リヌ疾ニカ、リ玉
ヒシ後ハ妄リニ他邦ノ人ナドニハ逢ヒ玉ハザル由人傳ニ聞シカ
バ如何ニヤト覺束ナシ思ヘシカド既ニイニシ年數ヲ教テ乞ヒ奉
リシトナレバソノ報ヒバガリニモト思ヒヤガチカクトオトナヒ
シニ直チニ病牀ニ招キ入レ一別以來ノ情ヲ述ベツギテ如何ニマ
シマスト問ヒ參ラセシニ近頃ハ聊カ怠リ玉ヒシガ兎角行歩ニナ
ヤミ玉ヲ由故蒙齋先生モ此疾憂玉ヒ終ニ下世シ玉ヒヌ余モ亦其
年頃ニテ同シ疾ナリトモ愈ルコトハナク且暮ノ人ナリトノタマ
ヒケル扱經學文章ノ談ニ及ビテ先生ノ教ニ從ヒテ山口先生ヲ訪
シト并ニ數年文章ニ心ヲ入レシコトヲ語リモシ見モシ玉ハラバ近
日ノ中ニ兩三篇モ携ヘ來リシト申セバトテモ甘ク議論モ出
來マシケレド見セ玉ヘトアリシカバ二月ノ朔日存愛樓記讀李花
集彼是三篇程淨寫シテ正ニ乞ヌ學問文辭ノ論ヲ申ニ崎門ノ學ニ
及ビ又中村惕齋文辭ハ一向チシケレド鈔說ニシテ欽按ノ説ハ

皆古人ノ説ナキ所ヲ考ヘシナリ感ズベキ事ナリ且律呂ノ下ニ至
委シク禮ヲモ講習シ追遠隲節慎終躋節ナド著述モアハ懸レ公至
テ淺シサレドモ一通リハコレニテモスムナリ先ヅノ禮ハ家禮ニ
テ事足レリ此頃惕齋ノ禮ノ事法假名ガキニモ書サカリヌイト
綿密ナルコトニテ家禮ニナキコト見ユ惜ムラクハ原本誤寫多ク始
ド讀ムニ及ヘズ禮ハ讀禮備考ニキナリトノタマフ由リ也
カネテ先生ノ家ニハ喪祭ノ禮ナド能ク習熟マシマスト聞ヌレ
バヨタロハ祇役中ニハ家禮ヲセンサクシテ教ヲ受ントウザレ
書ナド携ヘテ東セシキナト口惜シ
此度ハ子息ノ十八歳ナルヲ召連レ玉フ何レハ先生ヤカ遣ルニ度
モノナレドカネテ論ゼシ如ク遣ハス様キ所モナク修行積リシ
出來メナレト歎息シ玉フ其後常ニ參リ不審ヲ尋ネ教ヲ乞ハシ
思ヒシニ大火ニテ阿波侯ノ下屋敷島有トナリ藩士ノ居所也足
ズシテ先生ハ病中ナレバ俄カニ祇役免サレテ歸國シ玉ヘヌト

後ノ日人ノ語ルヲ聞テ覺ヘズ悵然タリ雌黃ヲ乞ヒヌル文モイカ
ガナリシヤ知ラズイト本意ナキコトニ侍リヌ
歸郷シ玉ヒテ後幾程モナク物故シ玉ヒケル

第七回 濫知會席上 秋山先生御講話

今日御話スル本論ニ先キ一節ノ話ヲシテ其端緒ヲ開ク事ニ致シマシヨウ小學ニ引テアル弟子職ニ濫恭自虛所受是極ト申ス本文ガ有リマスガ其通り人ノ話スヲヲ聽クニハ先ヅ己ノ心ヲ虛クセシケレバ其話ノ腹ニ人ヲヌト申スヲハ言フヲ俟タヌヲテ例セバ充分腹ノ膨レタ時分ハ如何ナル美味モ味フ能ハザルガ如ク一ツ何事カ己ガ胸間ニ横ハリテ居ル時ハソレニ遮キラレテ心ニ入ラヌモノデアリマスサレバ一ツ自分ノ腹ニ自己ノ意見ヲ抱イテ居タ日ニハ人ノ言フ事ヲ聞イテモ彼ハア、云フガオレハカフダト思フ故ニ其聞ク所ガ本トウニ腹ニ入ルヲガ出來マセヌ今日私ノ話シマスヲハ例ノ通り言ヒ様ガ下手デアリマスカラ聽キ取り難イ所モ有リマシヨウガ其論旨ハ決シテ自分ノ私見ヲ以テ言フノデアリマセヌ皆古人ノ意ニ基イテ話ス心算デアリマスカラ虚心ヲ聽イテ眞イタイ前ニモ云通リコレガ随分アルヲテ彼レハア、云ガ我意ハ違フト云ツテ心

ニトメヌ者ガアル然ルニ濯去舊見來新意ト云フガ有テ是ガ學ニ進
ムノ基礎トナルモノデアリマスカラ今私ノ話ストモ例ノ秋山ノ舊
見ダト思フ者モ有フガ併今日論スル所ハ決シテ我私見デハアリマ
センカラ心ヲ慮クシ舊見ヲ洗フテ新意ヲ來ス工夫ノアリタキモノ
デアリマス是ヨリ本論ニ入テ話シマセフ
扱今日モ時々此通り雪ガフリマスガ先日降雪ノアリマシタ時其雪
ヲ觀ルニ付感シタフガアリマシタカラソレヲ今日ノ話ニ致シマシ
ヨウ古人ノ歌ニ

何事も變り果てたる世の中と

知らてや雪の白く降るらむ

是ハ世ノ中ノ事ガ變遷シテ自分ノ心ガ伸ルヲ得ヌ所カラ詠シマ
シタルモノデ此三十一文字ノ中ニハ無限ノ感慨悲憤ヲ含ミテ居リ
マスソレハヨク分ツタ事デアリマスガ私ノ感シタト云ハ又別ニ一
ツ有リマス其ハ此歌ハ云々通り感慨ノ餘詠シタモノデハアルガソ

レガタマ〜天地之間古今一理萬古不易ノ證據トナル歌デアリマ
ス元來有理而後有物有物必有則ニテ凡物ハ皆理ノ象シタモノデ理
ガ變ラネバ物モ變ラヌ筈ソレユヘ雪ト云ヘバ古モ今モ白キニ定マ
ツテアルソノ何時マデモ白イノガ古今一理萬古不易ノ證據デアリ
マス若是ガ古今一理デナク變ルモノナラバ今ノ歌ノ如ク雪ハ白キ
計リデナリ變色スルヲモアル筈所ガ道理ニ二ツハナイカラ雪ハ萬
古白イソコデ私ガ

降る雪の白き程こそたのみなれ

千代も變らぬあめつちのいろ

トヨミマシタ是モ古今一理萬古不易デ人皆可學ト云意ヲ云フタ積
リデアリマスガコレハ雪ニ因リテノ感デアリマスカラ雪ト申シマ
シタガ獨リ雪ノミデハナリ萬物皆カフデ有リマス先梅ト云ハ春
ニ咲キ菊ハ秋ニ薰リ火ハ燃ヘ水ハ流ル、ガ如ク古今決シテカワラ
ヌガ古今一理萬古不易ノ定メデアリマス更ニ一例ヲアグレバ小田

原侯大久保忠真朝臣ガ霞ノ侍從トマデ稱セラレ給ヘル名歌ニ

見ぬ昔見るらんのちの末までも

心と霞むはるのあけぼの

是モ古今一理萬古不易ノ趣ヲ見ヘマス斯ノ如ク道理ハ定マツテアリマス其理ナリニ雪ハ白ク春ハ霞ムト申ス事ハ萬古不易デアリマス若此理ガ定マツテ居テケレバ黒イ雪モフリマシヨウシ春ニ立タズシテ秋ニ棚引ク霞モアリマシヨウガ其様ニ易ハラヌガ即天地一理萬古不易ノ大道理デアリマス

右ノ如ク道理ハ古往今來不易ノモノデアリマスレバ其道理ヲ學ブ學問モ萬古易ハラヌ筈デアリマス是ハ知レキツク話シデアル所ガ悲ムベシ此ノ處ガ俗眼ニテハ分明ニ看破スルコトガ出來マセン其處ガ後世道學ノ天下ニ明ヲカナラザル所以デアリマス然ルニ時ニ古今アレバ從ツテ事ニ變遷アルハ當リ前ノコトデアリマス時ガ遷リ事ガ變レバ其時々ニ應シテ其時ノ技術ガ現レテ參リマス所ガ兎角有

形ノ物ノ變化ハ眼ニ入り易クナリマスガ此無形ノ理ノ萬古不易ハ見ガタクアリマス故ニ眼前後カラ後ヘト易ル所ハ眼ガツキ安ク從ツテ其方ヘ向キタイガ常人ノ情デアリマス其處デ學問ハ時ヲ追ヒテ日ニ月ニ變化スルモノト人ガ皆思フテ居マスサリナガラソレハミナツマリ技藝ノ上ノ學デアツテ道理ノ學ニハ何時マデモ變化ハアリマセンモシ道理ニモ時ニヨツテ變化ガ有ルト見タ日ニハ黒イ雪モ降りマシヨウシ霞モ違フタ時ニ出マシヨウ然ルニ決シテ左様ナ事ガアリマセンソコガ道理ノ必ズ萬古不易ナル所以デアリマス故ニ道學モ萬古不易デアリマスサレド俗眼ニハ見難イ所カラ技藝ノ學ノミ暇々ト進ミマシテ道學ノ獨リ日ニ暗クナリマスルガ後世ノ有様デアリマス抑斯道學ハ古來聖賢ノ傳ヘ承クル所ニシテ古今ニ通シ上下ニ徹シ萬古不易ノ學ナリ此大根本ガナクテハ人生決シテ立テ行クコトデアリマセン

人間ハ此天地ノ道理ヲ真ケテ生レ出タルモノデアリマスカラ我身

夫天理ナリニスル事ガ人間ノ役目デアリマス故ニ第一道理ヲ學シ
テ一身ヲ立テ大根本ヲ据エシケレバナリマセヌ扱其通り道理ノ
ト云ツテモ空ガ様ニ考ル者モ有ウガ決シテサワデナイ我身ヲ道理
ナリニスルノダカラ決シテ空ナコデハナク極メテ實ナルコデアリ
マス所デ學問ハ一言デ言ヒ盡ス事ハ出來マセヌガ必竟人倫ノ道即
父子有親君臣有義夫婦有別長幼有序朋友有信ノ五倫ニ在ル是ヲ五
教ト申シ學者學此耳トアリテ之ヲ舍テ外ニハナイ也扱人間ナレ
バ必父子君臣夫婦長幼朋友ノ人倫アリテ親義別序信ノ道理ヲ具ヘ
テ居ルソノ道理ヲ明ニシ其道理ヲ履ミ行フテ其性ヲ盡ス様ニスル
ガ學問デ我身ヲ本來ノ道理ナリニ爲スノデアル扱此人倫ト云カ萬
世ノ末迄變ルコトガ有ウカ有ルマイカ思フテ見タガヨイ天地ノ有ン
限り人ト云人ノ有シ限リハ決シテ變ルコトナイサレバイヤト云ツテ
此ヲ逃ゲル事ハ出來ン逃ル事ガ出來ナケレバ其人倫ノ教ヲ學ブ學
問ヲセズトスムト云人間ハ天地ノ間ニナイ筈ナリ其ノ學ハ何ダト

申サバ即道學是ナリ斯ノ如ク斯道學デ人倫ヲ全クシテ本ノ人ニナ
ルノデ凡ソ人トシテハ斯道學ヲ外處ニスルコトハナリマセン必ズ
此大根本ヲシカト立テ、ガ、ヲネバ何事モナラス筈ナルヲ鼻ノ先
ノ技藝ニ汲々トシテ此大根本ヲヨソニスルハ實ニ誤レルノ甚キ者
ト云ヘン此蓋難見ノコトニ非ズ然ニ舉世滔々俗流ヲ追フテ歸ルコト
知ラザルモノ只弗思耳思ヘバ豈悟リ難カラシヤ此今日ノ猛省スベ
キ所ナリソレニ付イテ今一ツ御話スルコトガアル
扱今日諸般各科ノ學ハモトヨリ私ノ不得手ノ方デ諸子ノ長シテ居
ラル、處デアリマスレバ敢テ私ノ口ヲ容ル、處デアリマセヌガ今
日モ修身ト申ス事ハ随分大切ニシテ喧シク云ヘマスガ元來其修身
トハ何トシタモノデアラウ先ツ其文字ノ出處ヲ考ヘマスレバ大學
ノ八條目ノ中ニアル文字デコレカラ出タモノデアリマス人ハ貴賤
賢愚トナク皆此身アレバ身ノ大事ナイト云者ハナイ必ズ修メネバ
ナラズ即前ニモ云我身ヲ現アリニスルノデ是デ本トウノ人ニナル

ノデ我一身ニシテ且ツ修マランデハ他ニ何ノ技藝アルモ亦觀ルニ足ラザル者デアリマス今人々皆修身ノト云ガサテ其修身ノ實ハ如何果シテ履行シ得ルヤ否ヤコ、ニ至ツテ疑ナキ能ハズ多クノ人ノ中ニタマク身持ノヨイオトナシイ人ガアルトアレハ修身ノ出來タ人ダナド、云ガアレハ生質ノ好イト云迄デ本法ノ修身デハナイ全体修身ト云フハ今云通り大學ヨリ出タモノ故大學一部ノ書ヲ明ラメホバ修身ノ話ハチラヌソレニ小學一部ノ書ハ修身ノ根本デコレカラ學バホバ其身ハ決シテ修マルモノデナイ故ニ人ハ小學大學ノ實工夫ヲ經テ方ニ修身ヲ語ルベキナリモトヨリ一二談話ノ盡ス所デアアリヤセン今此席上ヲ見ルニ人ヲ教ユル任ノアル人ガ多ク見エマス別シテ此ヲ講究スルガ今日ノ急務ト思ハレマス凡ソ人ヲ教ルニハ身ヲ以テ教ルコトニテ第一其身ガ修ライデハ人ヲ教ヘラレンソコデ教ルモノヨク其身ヲ修メテ之ヲ以テ人ヲ導ク時ハ某教ノ及ブ所自然ニ一郷ノ風俗ヲ善クシ終ニハ全國ニモ及ボス

ベシ若之ニ反シテ其身先ヅ修マラザレバソノ教ヲ受ル者何ヲ以テ善ニ進ムヲ得ン獨リ善ニ進ム能ハザルノミナラズ次第ニ惡風ニ陥リ一郷ノ風俗ヲ壤乱シ延テ全國ニモ及バントス人ヲ教ル者其身ノ修マルト修マラザルト其關スル所ノ重キ此ノ如シサレバ此ノ講究ハ尤急務デアリマシヨウ又一箇人トシテモ已レノ身ガ善ク修マレバ自然一家ノシマリガ出來ル即身修リテ家齊フナリ其一家ノ善ハ稍ク一郷ニ及ボスベク一郷ノ善ハ終ニ全國ノ治ニモ及ボスベシ之ニ反シテ一身ノ不始末ハ一家齊ハザルノ本一家ノ不齊ハ稍ク一郷ノ俗ヲ乱シ延イテ全國ニモ及バントス故ニ修身ト申サバ小サイ様ニ思フ可レドモ小サイコトデナイ甚ダ大ナル者デヨク講究セネバナラヌコトデアリマス扱イヨク之ヲ講究シテ其身ヲ立派ニ修メントナラバ一技一藝ノ能クスル所ニアラズ只斯道學アルノミ斯ク申ス私モ三十有餘年斯學ヲ積ミマスレド身末ダ修ラハ慚汗ノ至リデアリマス諸子モ能ク身

ヲ修メラレテモ想フニ自分ノ心中ニ省ミレバ恐ラク自快足セザル
處アリマシヨウデアリマスカラ此上我モ人モ一層此道學ニ勉強シ
テ修身ノ眞面目ヲ全クシタイモノデアリマス
扱私ガ毎々道學ノト云ヘマスノモ決シテ空ナ理クツチ申スノデ
ハナク尤實學ナルヲ前ニ申ス通りデアリマス雪ハ古往今來白クア
リマスレバ人間モ同ジク萬古不易ナル人間ノ道ヲ履マネバナリマ
センソレハ學問デナクテハイカヌソノ學問ハ即道學デアリマス今
日諸科ノ學モ世ニ入用デアリマシヨウガ根元ノ道學ヲ以テ己ガ身
ヲ修メテカ、ラネバ人ノ道ヲツクスヲガ出來マセン雪ハ萬古白ク
フルガ人ハ我身ニ具ツタ萬古不易ノ道ヲツクスヲガ出來ント云テ
ソレデ人ト云レマセウカヨクノ思フベキデアリマス近日雪ヲ
觀ルニ就イテ此ニ考ヘ及ビマシタカラカク話シマシタ次第デ決シ
テ自己ノ臆說デアリマセン諸子以テ如何トナス幸ニ意ヲ留メラ
レンヲ望ミマス

佐藤爲繼君筆記

明治三十五年六月六日印刷

非賣品

明治三十五年六月十四日發行

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字八幡町拾八番屋敷

編纂人 岩瀬 六藏

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字矢田礮七拾番屋敷

發行人 菊地 覺一

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字三崎通八十七番屋敷

印刷人 松尾 民治 郎

三重縣伊勢國桑名郡桑名町大字三崎通八十七番屋敷

印刷所 清光舍活版所

伯 賦 類 一 帶 改 詩 列 類

三 帶 改 詩 列 類 卷 四 大 字 三 福 與 六 十 五 福 類

伯 賦 類 一 帶 改 詩 列 類

三 帶 改 詩 列 類 卷 四 大 字 三 福 與 六 十 五 福 類

伯 賦 類 一 帶 改 詩 列 類

三 帶 改 詩 列 類 卷 四 大 字 三 福 與 六 十 五 福 類

伯 賦 類 一 帶 改 詩 列 類

三 帶 改 詩 列 類 卷 四 大 字 三 福 與 六 十 五 福 類

六 賦 十 四 日 六 音

六 賦 十 四 日 六 音

非 寶 品

